

履修編

農学部

応用生物科学部

地域環境科学部

国際食料情報学部

短期大学部

『履修編』を読むにあたって

■履修すること

大学で授業を受けるためには、自ら科目を選び登録しなければなりません。この一連の行為を「履修登録」といいます。「履修登録」していない科目には、試験を受ける権利は与えられませんし、当然のことながら成績（評価）も与えられません。すなわち、正しい履修登録を行わない場合には、進級することも卒業することもできないのです。

この「履修編」は、みなさんが本学で学ぶうえでのガイドブックとして作成しており、カリキュラムや授業・試験などの内容や、さまざまな手続き、決まりごとを掲載しています。詳しくは該当のページをよく読んで下さい。

また、履修登録を行うためには、この「学生生活ハンドブック」とともに配布した「履修のてびき」を活用し、自分の将来計画・資格取得等を充分考慮して「履修登録」を行って下さい。

現在、本学には約13,000人の学生が在籍しています。その履修・成績等の膨大なデータを一括して取り扱う関係上、みなさんへの伝達事項（呼び出し・時間割発表など）は、「学生ポータルサイト」・「書類配布」で行うことになっています。まず「学生ポータルサイト」を見る習慣を身に付けて下さい。また、配布した書類は、必ずよく読んで下さい。さらに、各種手続き・提出物に関しては、提出期日を必ず守って下さい。卒業後、実社会での諸手続きの期限は実に厳格です。この社会に適応する意味においても在学中から「締切日1日前の提出」を心がけて下さい。掲示や配布した書類を読んでもなお判らない場合には、窓口（世田谷キャンパス＝学習支援課・厚木キャンパス＝学生サービス課）で相談して下さい。

本学では、後で詳述するように、幅広い教育を旨として選択科目については、所属学部・学科配当の授業科目以外にも他学科聴講及び他学部聴講が各自の意志により履修できることとなっています。

しかしながら、ともすると数多い開講科目に目をうばわれがちになり、各自の目的や一貫性を失う結果を招く場合もないとはいえません。

授業科目の履修にあたっては、各自の学習目的及び所属学部・学科の教育目標を十分理解し、それを基本にした上で、慎重に行なって下さい。

■学生諸君への注意事項

- 1 「学生ポータルサイト」を必ず確認すること。
- 2 配布した書類は熟読すること。
- 3 履修登録やレポートなどの提出期限を守ること（締切後は受け付けない）。
- 4 電話での問い合わせは、原則として受け付けない。
- 5 窓口の業務時間は次のとおり（質問・相談等は業務時間内に行うこと）。

〔平日〕 世田谷キャンパス 8:30～19:30 厚木キャンパス 8:30～17:00

※夏季休業等授業を実施していない期間中は、業務時間を変更するので確認すること。

■学部・学科等の名称の短縮表示・表示順番について

本学では、学生への各種伝達を行うにあたり学部等の名称を短縮して表示することがあります。また、学部・学科の表示順番は原則として次のように行います。

学部・学科等の短縮名

学部名等	短縮名	学部名等	短縮名
農学部 農学科 農業生産科学コース 園芸生産科学コース 畜産学科 バイオセラピー学科 応用生物科学部 バイオサイエンス学科 生物応用化学科 醸造科学科 栄養科学科 食品栄養学専攻 栄養科学科 管理栄養士専攻 地域環境科学部 森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科 国際食料情報学部 国際農業開発学科 食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科	農学部 農学 農 園 畜産 セラピー 応生学部 バイオ 化学 醸造 栄養 管理 環境学部 森林 工学 造園 国際学部 開発 経済 ビジネス	英語による専門教育プログラム 全学共通科目 教職課程 学術情報課程	英語専門 全学共通 教職／教 学術
		短期大学部 生物生産技術学科 環境緑地学科 醸造学科 栄養学科	短大部 短生 短緑 短醸 短栄

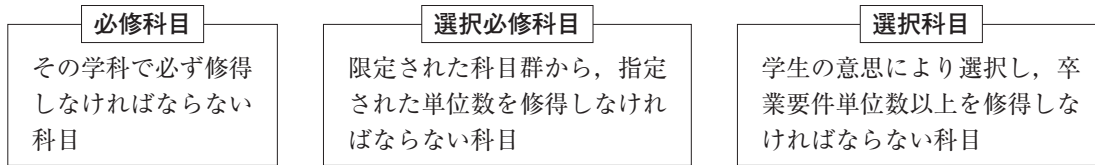
大 学

- 農 学 部 (厚 木キャンパス)
- 応用生物科学部 (世田谷キャンパス)
- 地域環境科学部 (世田谷キャンパス)
- 国際食料情報学部 (世田谷キャンパス)

授業科目の概要

授業科目は、本学の教育目標を達成するために、次のように分けられ各年次に配当されています。

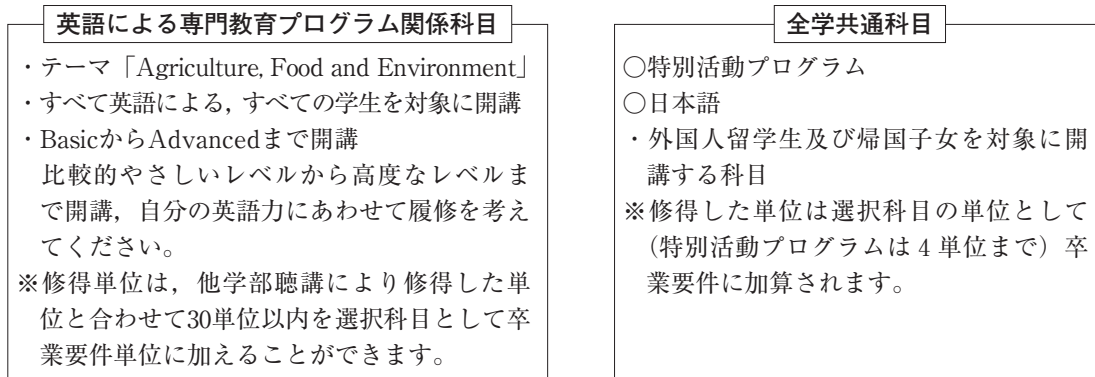
1 各学科配当授業科目（各学科の教育目標を達成するために分野ごとに編成されています）



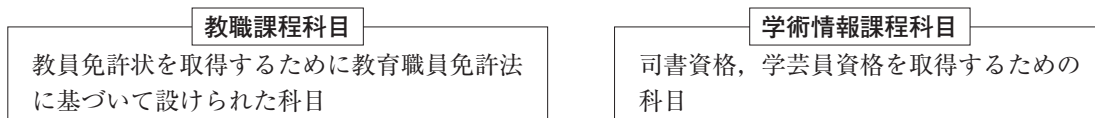
2 学部共通授業科目（各学部の学科間共通の教育目標を達成するために共通開講科目として学部ごとに編成されています）

必修科目と選択科目に分かれています。

3 オープン開講方式による授業科目（学部学科教育を超えた共通科目として編成されています）



4 資格取得に関する授業科目（資格取得を希望する学生のために共通科目として編成されています）



単 位 制

大学における単位制とは授業科目を履修し、その授業科目に与えられた単位を試験等に合格することによって修得する制度です。卒業までに定められた単位数を修得しなければなりません。

各授業科目の単位数は、授業の方法に応じて異なり当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により定められています。

[単位計算基準]

区 分	単位数	授 業 時 間
講義・演習（外国語を含む）	2単位	2時間(週 1 コマ) × 15週(半期)
実験・実習・研修・スポーツレクリエーション	1単位	2時間(週 1 コマ) × 15週(半期)

※1時限（1コマ=2時間）は90分授業で実施します。

授 業

1 学期制（セメスター制）

本学では1年間を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれの学期の中で各学期配当科目の授業・試験・成績評価を行います。したがって各学期の最終評価が不合格となった科目を履修する場合は、翌年度に再度履修し、授業を受講することになります。

2 授業時間

本学の授業は、90分を1時限として行います。なお、授業の時間区分は次のとおりです。

時限	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限	6時限
時間 (90分間)	9:00 }	10:40 }	12:10 }	13:00 }	14:40 }	16:20 }	18:00 }
	10:30	12:10	13:00	14:30	16:10	17:50	19:30

3 出席の重要性

授業は、教員と学生が直接人間的なふれあいを通して学問する場であり、学生生活の基本となるものです。また、単位制の基本となる授業時間について定めがあるように、出席状況は成績評価の重要な要素になります。なお、授業を3分の1以上欠席した場合は、定期試験等を受験しても単位を修得できない場合があります。

4 欠席届

授業をやむを得ない事由で欠席する場合または欠席した場合は、窓口に置いてある「欠席届」に必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出して下さい（欠席届は学生ポータルサイトからダウンロードできます）。

なお、学校保健法に規定された伝染病による欠席届は、専用の様式があります。詳細は、p.50の「健康管理」を参照して下さい。

5 休講

休講の場合は事前に掲示により伝達します。休講の掲示がなく、30分経過しても授業が開始されない場合は、関係窓口で確認して下さい（休講情報は、学生ポータルサイトで確認できます）。

6 補講

授業時間数がやむを得ぬ事情により不足した場合には、補講授業を実施することがあります。この場合、授業担当者が指示するほか、掲示により伝達します。

7 学生による授業評価

本学では授業をよりよくするために、学生ポータルサイトまたは携帯電話で「学生による授業評価」を実施しています。よりよい授業を行うことは授業担当者の責務ですが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握（測定）するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要があります。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握するためにも授業評価は有効です。よりよい授業は、授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、授業評価の実施にご協力ください。

また、授業に対して意見がある場合は「授業に意見」という用紙を用いて提出することができます。これは日ごろ授業を受けていて感じることを、改善してほしいと願っていることを発言するためのものです。提出された意見は十分検討し、改善を図ることになっています。学生ポータルサイトには、大学への要望・提案および授業・研究室、学生生活上の悩み等をメールで受け付ける窓口を開設していますのでご利用ください。

履 修

1 履修とは

毎年度はじめに1年間の受講科目を各自が決定し、実際の授業に出席する一連の流れをいいます。

2 履修科目決定までの流れ

(1) 履修計画

履修登録を行うにあたって、1年間の履修計画を立てなければなりません。次の点を考慮し計画して下さい。

- ① 各学科の「授業科目配当表」「講義要項（シラバス）」を熟読し、カリキュラムの概要を把握して下さい。
- ② **必修科目**は、決められた年次・学期に履修して下さい。
- ③ **選択科目**は、将来志向や資格取得などを考え、卒業要件を満たすように履修して下さい。
- ④ 進級基準及び卒業基準を超えるように、履修計画を立てて下さい。

(2) 履修登録

履修登録とは、各自が受講しようとする授業科目について、その意思表示をすることです。また、履修登録は1年間あるいは各学期の履修計画を決める上で最も重要な手続きであり、単位の修得及び卒業には欠かすことのできないものです。履修登録を安易に考え、手続きを怠ったことにより無駄な時間を過ごしてしまうことになりかねません。各自の履修計画を円滑に進めるために細心の注意を払って履修登録を行って下さい。

履修登録の詳細は「履修のてびき」（別冊）に記載してあります。これを参照し履修登録を行って下さい。

(3) 履修の確定

5月中に「履修確定表」を学生ポータルサイトに開示します。この表に記載されている授業科目が当該年度の登録された科目です。登録されていない科目がある場合は、履修確認期間内に手続きをして下さい。

※後学期配当科目については、後学期授業開始後に登録の変更を認めます。

詳細については「履修のてびき」で確認して下さい。

3 履修上の注意事項 [取決め事項]

(1) 履修登録単位数の制限について

単位を得るためには、定められた時間の学習が必要です。例えば、講義科目の場合、2単位を修得するためには、90時間の学習が必要であり、1回の授業において2時間（2時間×15週間＝30時間）学び、1週間に4時間（4時間×15週間＝60時間）の予習・復習を行うことにより、単位が与えられます。このように履修登録単位数と学習時間は連動しており、登録する単位数が多ければ1週間に学習する時間は比例して増加することになります。

本学では履修登録を行うにあたって、次のように登録できる単位数を制限しています。1週間に学習できる時間数を考えて履修登録を行うようにして下さい。なお、卒業年次生には履修登録制限はありません。また、教職課程科目、学術情報課程科目及び特別活動プログラムについては、この履修登録単位数の制限から除外します。

1年間に履修登録できる単位数の上限……46単位（他学科・他学部聴講・英語専門・全学共通を含む）

各学期に履修登録できる単位数の上限……26単位（他学科・他学部聴講・英語専門・全学共通を含む）

例えば前学期に26単位登録した場合には、後学期に登録できる単位数は20単位になります。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありませんので、注意して下さい。

(2) 有料科目について

一度履修して不合格になった科目を再び履修する場合（再履修）は有料になり、1科目につき所定の金額を納付することになります。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

(3) 他学科聴講について

- ・所属学部内の他の学科の講義科目を履修すること（実験・実習・演習・研修科目は履修できません。ただし、国際農業開発学科・海外農業実習（一）（二）（三）は他学科聴講できます）です。
- ・在学中に30単位まで履修できます（合否にかかわらず、履修した時点で単位数をカウントします）。
- ・修得した単位はすべて卒業要件単位に加えることができます。
- ・上級学年配当の科目は履修できません。

(4) 他学部聴講について

- ・他の学部で開講している講義科目を履修すること（実験・実習・演習・研修科目は履修できません。ただし、国際農業開発学科・海外農業実習（一）（二）（三）は他学部聴講できます）です。
- ・在学中に30単位まで履修できます（合否にかかわらず、履修した時点で単位数をカウントします）。
- ・修得した単位は、英語専門教育プログラム・特別活動プログラムとあわせて30単位まで、卒業要件単位に加えることができます。
- ・上級学年配当の科目は履修できません。

(5) 大学間の協定による授業科目の履修について（詳細は「履修のてびき」を参照）

現在、東京農業大学短期大学部と東京情報大学の間で協定を締結しており、それぞれの大学の授業科目を履修することができます。また、農学部においては、首都圏西部大学単位互換協定に基づき、協定締結大学間の授業履修・単位修得ができます。これらの科目は、履修登録単位数の制限には入りません。

試験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験を行います。授業科目によっては、レポートに代える場合があります。授業に出席し授業担当者の指示に従って下さい。

受験資格

- (1) 当該授業科目が履修登録されていること
 - (2) 当該授業担当者の定める授業日数を満たしていること（原則として授業日数の2/3以上）
 - (3) 当該学期までの学費その他の納付金を納入していること
- ※休学期間中に試験を受けることはできない

1 定期試験

一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験です。定期試験を実施する授業科目およびその時間割は、試験開始1週間前に掲示板・学生ポータルサイトで発表します（実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しません）。

なお、定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日（試験時間割発表時に掲示）までに欠席の事由（当日の状況）を証明する書類を持参して試験欠席の手続きを行って下さい。この届出により、追試験の受験を認めます。欠席事由と添付提出書類は次のとおりです。

欠席事由	提出書類
病気	医師の診断書（試験当日の健康状態を記載のものに限る）
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引（3親等までの親族の死亡）	死亡に関する書類（会葬通知等）
就職試験等	就職活動証明書（世田谷キャンパスはキャリアセンター、厚木キャンパスはキャリア・エクステンション課で証明を受けること） ※ただし、面接・試験の場合のみ認める。企業説明会は、認められないので注意すること
災害（水害・火災等）	官公庁による被災証明書

※詳細は関係窓口で確認して下さい。

2 追試験

定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して各学期末に行う試験です（無料）。なお、本人の不注意による試験の欠席および証明する書類がない場合は、追試験の対象となりません。

※追試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

3 再試験

成績が「不可」となった講義科目に対して各学期末に行う試験です（有料）。

再試験受験希望者は、「履修のてびき」（別冊）の指示に従い、手続きを行って下さい。

なお、再試験の結果、合格した場合の評価は、原則として「可」となります。

4 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は45分間です。通常の授業時間とは異なるので注意して下さい。
- 学生証を所持していない学生は受験できません。なお、当日忘れた場合は、掲示にしたがい仮学生証の発行を受けて下さい（有料・当日限り有効）。
- 受験科目が重複した場合は、事前に申し出て下さい。
- 試験場への入場は、試験開始後20分までとします（試験開始後は、退場はできません）。
- 試験場あるいは授業担当者との間違い、無記名答案は受験しても無効となります。
- 答案は白紙であっても必ず提出して下さい。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従わなければなりません。
- 試験に関しては、関係窓口へ問い合わせして下さい。

[試験時間]

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00
	} 9:45	} 10:45	} 11:45	} 12:45	} 13:45	} 14:45

時限	7時限	8時限	9時限	10時限	11時限
時間	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
	} 15:45	} 16:45	} 17:45	} 18:45	} 19:45

5 不正行為について

不正行為（カンニング）が発覚した場合は、当該学期の評価をすべて無効（未評価）とします。

6 試験に代えて行うレポート提出時の注意事項

レポートの提出は、担当教員が授業中に提出を求める場合、担当教員が締切期日を指定して研究室等で受け付ける場合、窓口で受け付ける場合等があります。

<レポート表紙の様式>

A4サイズ

科目名： _____ 担当者： _____ <課題> _____ _____ 学科： _____ 学年： _____ 学籍番号： _____ <div style="text-align: right; padding-right: 20px;">氏名： _____</div>	
--	--

いずれの場合も**提出締切厳守**となっていますので注意して下さい。

レポートの提出に際しては、原則として次の注意事項に従って下さい。

- 表紙を含めサイズは、授業担当者の指示がない限りA4にして下さい。
- 必要事項（科目名・担当者・課題・学科・学年・学籍番号・氏名）をもれなく記載して下さい。
- 原則として左上角をホッチキスで必ず止めて下さい。ただし、授業担当者の指示がある場合はそれに従って下さい。
- 定められた場所に提出して下さい。
- 期限は厳守して下さい。
- 表紙のないレポートや、記載内容に不備があるレポートは、無効になる場合があります。

成績

1 成績評価

成績評価は、「秀」・「優」・「良」・「可」が合格で、「不可」は不合格です。成績評価の基準は、次の通りです。

成績評価基準のガイドライン

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績（履修者の5%以内）
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない

2 GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

（1）GPA

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、平成18年度からGPAを算出しています。

（2）GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とします。したがって、他学科・他学部聴講科目などは含め、教職・学術情報課程や特別活動プログラムおよび認定科目は除かれます。

（3）GPAの算出

[学期ごとのGPAの算出方法]

学期ごとのGPA算出は、次の式によります。

$$\frac{\text{（当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. GPA対象科目で不可（D）および未評価（F）科目は、分母に含みます。

注2. 通年科目は後学期に含めGPAを算出します。

注3. 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出します。

注4. 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期のGPAは変更しません。

[通算GPAの算出方法]

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づくもので、その算出は次の式によります。

$$\frac{\text{(在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. 通算GPAは毎学期末に算出します。

注2. 再履修した場合は1科目としてカウントします（ダブルカウントしない）。

注3. 再履修した科目のG Pは、最新の評価に基づく値で算出します。

3 履修成績表

各学期に履修した授業科目の成績は、次の学期の授業開始前に履修成績表として学生ポータルサイトにて開示します。

4 成績証明書

成績証明書には、「秀」・「優」・「良」・「可」の合格した授業科目（科目名・単位数・評価）と通算GPAを記載し、不合格の授業科目は記載しません。

5 成績相談

学期毎の成績発表後に実施します。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

進 級

1 1年次から2年次への進級判定（休学者を除く）

1年次終了時に卒業要件に関わる修得単位数が20単位未満の場合に行います（学則第35条第1項第2号に該当するものとみなして退学を命ずることがあります）。

2 2年次から3年次への進級基準（休学者を除く）

2年次終了時に、卒業要件に関わる修得単位数が50単位未満の場合には、3年次への進級を認めません（原級または学則第35条第1項第2号に該当する退学となります）。

3 3年次から4年次への進級基準（休学者を除く）

3年次終了時に、卒業要件に関わる修得単位数が90単位未満の場合には、4年次への進級を認めません（原級または学則第35条第1項第2号に該当する退学となります）。

4 進級者の発表

年度末（3月中旬）に進級確定者を掲示板で発表します。

在学期間

本学に在学できる期間は、休学期間を除いて8年以内です。

卒業・学位記

1 卒業要件

卒業に必要な単位数は「124単位」です。

[学部・学科別卒業要件単位数]

学部名	学 科 名	必修科目	選択必修科目	選択科目	計
農学部	農学科農業生産科学コース	60		64	124
	農学科園芸生産科学コース	60		64	124
	畜産学科	70		54	124
	バイオセラピー学科	48		76	124
応用生物科学部	バイオサイエンス学科	91		33	124
	生物応用化学科	90		34	124
	醸造科学科	84		40	124
	栄養科学科食品栄養学専攻	76		48	124
	栄養科学科管理栄養士専攻	80		44	124
地域環境科学部	森林総合科学科	81		43	124
	生産環境工学科	74		50	124
	造園科学科	82		42	124
国際食料情報学部	国際農業開発学科	60		64	124
	食料環境経済学科	42	12	70	124
	国際バイオビジネス学科 経営・マーケティングコース 経営情報コース	46	22	56	124
	国際バイオビジネス学科 資源環境ビジネスコース	46	24	54	124

※詳細は各学科の授業科目配当表を参照のこと。

2 学位記

卒業生には、次のとおり学士の学位を授与します。また卒業時に学位記を授与します。

学 部	学 科	学 位
農 学 部	全 学 科	学 士 (農 学)
応 用 生 物 科 学 部	全 学 科	学 士 (応 用 生 物 科 学)
地 域 環 境 科 学 部	全 学 科	学 士 (地 域 環 境 科 学)
国 際 食 料 情 報 学 部	全 学 科	学 士 (国 際 食 料 情 報 学)

3 9月卒業

次の各項目をすべて満たす場合は、9月30日付で卒業する。

- ・ 9月30日までに卒業要件単位を満たしていること（9月30日までに卒業論文の評価が合格になった場合を含む）。
- ・ 9月30日で4年間在学していること。
- ・ 4年次を通算で1年間以上在籍していること。
- ・ 該当学生が9月卒業を希望していること。

そ の 他

1 学生への連絡と掲示

学生への通知や連絡は、学生ポータルサイトによって行います。休講，補講，教室変更，時間変更，手続書類不備の呼出し等を掲示しますので，必ず毎日学生ポータルサイトを見る習慣をつけて下さい。

※電話による問い合わせ（行事予定・試験・休講等）は受け付けていません。学生ポータルサイトで確認するか，関係窓口で直接聞いて下さい。

2 窓口での相談・質問等

履修に関する相談，試験に関する質問，レポートの提出，呼び出し応答など修学に必要な事項の相談・質問は，窓口へ申し出て下さい。

なお，提出期限のある手続き（レポート提出等）は，受付期間・時間を厳守して下さい（期限に遅れた場合は受け付けません）。

窓口受付時間（夏季休業等授業を実施していない期間中は時間を変更するので確認のこと）

〔平日〕 世田谷キャンパス 8:30～19:30 厚木キャンパス 8:30～17:00

※時間外は受け付けません。

授業科目配当表

農学部 農学科(農業生産科学コース)

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農学部 共通の 科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
		農学原論	2	F2				農
		生命倫理	2		L2			理生
		生物学	2	F2				理必生
		化学	2	F2				理必化
		環境科学	2		L2			理化
		科学と哲学	2			F2		
		現代社会と人間	2			L2		
		経済学	2	L2				
		現代美術	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		日本国憲法	2	F2				必
		ボランティア論	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2	L2				
		選択英語(一)	2	F2				
		選択英語(二)	2	L2				
		選択英語(三)	2		F2			
		選択英語(四)	2	L2				
		英会話(一)	2			F2		
		英会話(二)	2			L2		
		ビジネス英語	2				F2	
		科学英語	2				F2	
		※中国語(一)	2	F2				
		※中国語(二)	2	L2				
		※ドイツ語(一)	2	F2				
		※ドイツ語(二)	2	L2				
		※フランス語(一)	2	F2				
		※フランス語(二)	2	L2				
	※スペイン語(一)	2	F2					
	※スペイン語(二)	2	L2					
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必	
	スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
農学科 共通基礎の 科目		生物化学	2	F2				理化
		実験計画法	2			F2		
		農業気象学	2	F2				理地
	必	作物生産学	2	F2				農
	必	土壌学	2	F2				農

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農学科 共通基礎の 科目		植物栄養学	2	F2				理生
	必	遺伝学	2	L2				理生
	必	育種学	2	L2				理生
	必	植物病理学	2	L2				理生
		植物防疫論	2			L2		理化
	必	昆虫学	2	L2				理生
	必	園芸学(一)	2	F2				農
	必	園芸学(二)	2	L2				農
		農作業システム論	2	F2				農
		農業経営学	2			F2		農
		資源生物論	2	F2				理生
		進化生物学概論	2	F2				理生
		雑草学	2			F2		農
		農産物マーケティング論	2			L2		農
	作物生産 分野の 科目		食用作物学(一)	2	F2			
		食用作物学(二)	2	L2				農
		工芸作物学	2	F2				農
		草地・飼料作物学	2	L2				農
		持続型農業論	2			F2		農
		植物育種学	2	L2				農
		植物工学(一)	2	F2				理生
		植物工学(二)	2	L2				理生
植物保護 分野の 科目			農業環境微生物学	2	F2			
		植物病原微生物学(一)	2			F2		理生
		植物病原微生物学(二)	2			L2		理生
		昆虫生態学	2			L2		理生
		昆虫分類学	2	L2				理生
		昆虫生理学	2			F2		理生
		昆虫利用学	2			F2		農
総合化の 科目	必	○生物学実験	2		2			理生
	必	農業実習(一)	2	F4				農
	必	○農業実習(二)	2		2			農
	必	作物学実験(一)	2			F4		農
	必	遺伝育種学実験(一)	2			F4		理生
	必	植物病理学実験(一)	2			F4		理生
	必	昆虫学実験(一)	2			F4		理生
	必	作物学実験(二)	2			L4		農
	必	遺伝育種学実験(二)	2			L4		理生
	必	植物病理学実験(二)	2			L4		理生
	必	昆虫学実験(二)	2			L4		理生
	必	作物学演習(一)	4			F4		農
	必	遺伝育種学演習(一)	4			F4		理生
	必	植物病理学演習(一)	4			F4		理生
	必	昆虫学演習(一)	4			F4		理生
必	作物学演習(二)	4			L4		農	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
総合化の科目	必	遺伝育種学演習(二)	4			L4		理生	
	必	植物病理学演習(二)	4			L4		理生	
	必	昆虫学演習(二)	4			L4		理生	
	必	作物学演習(三)	4				F4	農	
	必	遺伝育種学演習(三)	4				F4	理生	
	必	植物病理学演習(三)	4				F4	理生	
	必	昆虫学演習(三)	4				F4	理生	
	必	作物学演習(四)	4				L4	農	
	必	遺伝育種学演習(四)	4				L4	理生	
	必	植物病理学演習(四)	4				L4	理生	
	必	昆虫学演習(四)	4				L4	理生	
			インターンシップ	1				1	
	必		卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す（空白は選択科目）。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
60単位	64単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を表す。
 2 ※の外国語は在学中1カ国語のみ履修することができる（複数の外国語の履修は認めない）
 3 農業実習（一）は集中で実施する。
 4 3年次の実験（一）・（二）は各自が所属する専攻の実験科目を必修とする。
 5 3・4年次の演習（一）・（二）・（三）・（四）は，各自が所属する専攻の演習科目を必修とする。
 6 ○は隔週で通年開講する科目である。
 7 農業生産科学コースの学生は，農学科園芸生産科学コースの次の科目について，自コースの選択科目として履修することができる。

農学科 園芸生産科学コース

分野	授業科目	単位数	週時間数				教職
			一年次	二年次	三年次	四年次	
園芸生産分野の科目	果樹園芸学	2		F2			農
	果樹栽培論	2		L2			農
	野菜園芸学	2		F2			農
	野菜栽培論	2		L2			農
	花卉園芸学	2		F2			農
	花卉栽培論	2		L2			農
園芸機能開発分野の科目	バイオナーサリ論	2		F2			理生
	園芸環境植物学	2		F2			農
	ポストハーベスト論	2		L2			農
	植物生長調節論	2			L2		理生

農学部
農学科(園芸生産科学コース)

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農学部 共通の 科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
		農学原論	2	F2				農
		生命倫理	2		L2			理生
		生物学	2	F2				理必生
		化学	2	F2				理必化
		環境科学	2		L2			理化
		科学と哲学	2			F2		
		現代社会と人間	2			L2		
		経済学	2	L2				
		現代美術	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		日本国憲法	2	F2				必
		ボランティア論	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
		選択英語(一)	2	F2				
		選択英語(二)	2	L2				
		選択英語(三)	2		F2			
		選択英語(四)	2		L2			
		英会話(一)	2			F2		
		英会話(二)	2			L2		
		ビジネス英語	2				F2	
		科学英語	2				F2	
		※中国語(一)	2		F2			
		※中国語(二)	2		L2			
		※ドイツ語(一)	2		F2			
		※ドイツ語(二)	2		L2			
		※フランス語(一)	2		F2			
		※フランス語(二)	2		L2			
	※スペイン語(一)	2		F2				
	※スペイン語(二)	2		L2				
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必	
	スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
農学科 共通基礎 の科目		生物化学	2	F2				理化
		実験計画法	2			F2		
		農業気象学	2		F2			理地
	必	作物生産学	2	F2				農
	必	土壌学	2	F2				農

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
農学科 共通基礎 の科目		植物栄養学	2		F2			理生	
	必	遺伝学	2	L2				理生	
	必	育種学	2	L2				理生	
	必	植物病理学	2	L2				理生	
		植物防疫論	2			L2		理化	
	必	昆虫学	2	L2				理生	
	必	園芸学(一)	2	F2				農	
	必	園芸学(二)	2	L2				農	
		農作業システム論	2		F2			農	
		農業経営学	2			F2		農	
		資源生物論	2		F2			理生	
		進化生物学概論	2		F2			理生	
		雑草学	2			F2		農	
		農産物マーケティング論	2			L2		農	
	園芸 生産分野 の科目		果樹園芸学	2		F2			農
			果樹栽培論	2		L2			農
		野菜園芸学	2		F2			農	
		野菜栽培論	2		L2			農	
		花卉園芸学	2		F2			農	
		花卉栽培論	2		L2			農	
園芸 機能開 発 分野の 科目		バイオナーサリ論	2		F2			理生	
		園芸環境植物学	2		F2			農	
		ポストハーベスト論	2		L2			農	
		植物生長調節論	2			L2		理生	
総合 化の 科目	必	○生物学実験	2		2			理生	
	必	農業実習(一)	2	F4				農	
	必	○農業実習(二)	2		2			農	
	必	園芸生産実験(一)	2			F4		農	
	必	園芸機能開発実験(一)	2			F4		農	
	必	園芸生産実験(二)	2			L4		農	
	必	園芸機能開発実験(二)	2			L4		農	
	必	園芸生産演習(一)	4			F4		農	
	必	園芸機能開発演習(一)	4			F4		農	
	必	園芸生産演習(二)	4			L4		農	
	必	園芸機能開発演習(二)	4			L4		農	
	必	園芸生産演習(三)	4				F4	農	
	必	園芸機能開発演習(三)	4				F4	農	
	必	園芸生産演習(四)	4				L4	農	
	必	園芸機能開発演習(四)	4				L4	農	
		インターンシップ	1				1		
必	卒業論文	8							

区分類の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
60単位	64単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を表す。
 2 ※の外国語は在学中1カ国語のみ履修することができる(複数の外国語の履修は認めない)
 3 農業実習(一)は集中で実施する。
 4 3年次の実験(一)・(二)は各自が所属する専攻の実験科目を必修とする。
 5 3・4年次の演習(一)・(二)・(三)・(四)は，各自が所属する専攻の演習科目を必修とする。
 6 ○は隔週で通年開講する科目である。
 7 園芸生産科学コースの学生は，農学科農業生産科学コースの次の科目について，自コースの選択科目として履修することができる。

農学科 農業生産科学コース

分野	授業科目	単位数	週時間数				教職
			一年次	二年次	三年次	四年次	
作物生産分野の科目	食用作物学(一)	2		F2			農
	食用作物学(二)	2		L2			農
	工芸作物学	2		F2			農
	草地・飼料作物学	2		L2			農
	持続型農業論	2			F2		農
	植物育種学	2		L2			農
	植物工学(一)	2		F2			理生
植物工学(二)	2		L2			理生	
植物保護分野の科目	農業環境微生物学	2		F2			理生
	植物病原微生物学(一)	2			F2		理生
	植物病原微生物学(二)	2			L2		理生
	昆虫生態学	2			L2		理生
	昆虫分類学	2		L2			理生
	昆虫生理学	2			F2		理生
	昆虫利用学	2			F2		農

農学部 畜産学科

畜産

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農学部 共通 の 科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
		農学原論	2	F2				農
		生命倫理	2		L2			理生
		生物学	2	F2				理必生
		化学	2	F2				理必化
		環境科学	2		L2			理化
		科学と哲学	2			F2		
		現代社会と人間	2			L2		
		経済学	2	L2				
		現代美術	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		日本国憲法	2	F2				必
		ボランティア論	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2	L2				
		選択英語(一)	2	F2				
		選択英語(二)	2	L2				
		選択英語(三)	2		F2			
		選択英語(四)	2	L2				
		英会話(一)	2			F2		
		英会話(二)	2			L2		
		ビジネス英語	2				F2	
		科学英語	2				F2	
		※中国語(一)	2	F2				
		※中国語(二)	2	L2				
		※ドイツ語(一)	2	F2				
		※ドイツ語(二)	2	L2				
		※フランス語(一)	2	F2				
		※フランス語(二)	2	L2				
		※スペイン語(一)	2	F2				
	※スペイン語(二)	2	L2					
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必	
	スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
畜産学科 共通基礎 の 科目	必	★☆畜産概論	2	F2				農
	必	★☆動物解剖学	2	F2				理生
	必	★動物発生学	2	F2				理生
	必	動物遺伝学	2	F2				理生
必	化学実験	2	L4				理化	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
畜産学科 共通基礎 の 科目	必	★生物学実験	2	L4				理生
	必	☆生化学	2	L2				理化
	必	生物統計学	2			L2		理生
	必	★畜産実習(一)	1	F2				農
	必	★畜産実習(二)	1			F2		農
		☆家畜論(牛)	2	F2				農
		☆家畜論(豚)	2	F2				農
		☆家畜論(綿山羊・馬)	2	L2				農
		☆家畜論(家禽)	2	F2				農
		実験動物学	2	F2				理生
		愛玩動物論	2	F2				理生
		動物資源学	2	L2				理生
		動物生体機構学	2	L2				理生
		☆動物栄養学	2	L2				理生
		家畜微生物学	2		F2			理生
		☆草地学	2		F2			農
		食品衛生学	2			L2		理生
		★動物細胞工学	2			F2		理生
		畜産環境保全論	2			F2		農
		動物関連法規	2				F2	農
	分子生物学	2				F2	理生	
生命科学 分野 の 科目	必	★☆家畜繁殖学(一)	2		F2			理生
	必	★☆家畜繁殖学(二)	2		L2			理生
		★家畜人工授精論	2			F2		農
		★家畜受精卵移植論	2			L2		理生
	必	★☆家畜育種学(一)	2		F2			理生
	必	★☆家畜育種学(二)	2		L2			理生
	必	☆家畜生理学(一)	2		F2			理生
	必	☆家畜生理学(二)	2		L2			理生
		動物免疫学	2			F2		理生
		動物生理化学	2			L2		理生
生産科学 分野 の 科目	必	★家畜飼養学(一)	2		L2			農
	必	★家畜飼養学(二)	2			F2		農
		☆飼料学	2		F2			農
		★☆家畜管理学	2		F2			農
	必	☆畜産物利用学(一)	2		F2			農
	必	☆畜産物利用学(二)	2		L2			農
		食品微生物学	2		L2			農
		動物性食品機能学	2			F2		農
	必	☆家畜衛生学(一)	2		L2			農
	必	☆家畜衛生学(二)	2			F2		農
		家畜臨床検査論	2			F2		理生
		家畜疾病学	2			L2		農
	必	☆畜産マネジメント(一)	2		L2			農
必	☆畜産マネジメント(二)	2			F2		農	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
生産科学		畜産施設機械論	2			F2		農
		市場流通論	2			L2		農
総合化の科目	必	畜産学実験実習	2		L4			農
	必	○家畜繁殖学実験実習(一)	2			2		農
	必	○家畜育種学実験実習(一)	2			2		農
	必	○家畜生理学実験実習(一)	2			2		農
	必	○家畜飼養学実験実習(一)	2			2		農
	必	○畜産物利用学実験実習(一)	2			2		農
	必	○家畜衛生学実験実習(一)	2			2		農
	必	○畜産マネジメント実験実習(一)	2			2		農
	必	○家畜繁殖学実験実習(二)	2				2	農
	必	○家畜育種学実験実習(二)	2				2	農
	必	○家畜生理学実験実習(二)	2				2	農
	必	○家畜飼養学実験実習(二)	2				2	農
	必	○畜産物利用学実験実習(二)	2				2	農
	必	○家畜衛生学実験実習(二)	2				2	農
	必	○畜産マネジメント実験実習(二)	2				2	農
		インターンシップ	1				1	
必		卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
70単位	54単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。
- 2 ★は, 家畜人工授精師(家畜人工授精ならびに家畜体内受精卵移植及び家畜体内受精卵移植)に関わる講習会受講資格に必要な科目である。
- 3 ☆は, 食品衛生管理者・食品衛生監視員の資格(いずれも任用資格)に必要な科目である。
☆の科目のうち選択科目は次の5科目群(①~⑤)のうち3科目群以上を必ず修得してください。
①家畜論(牛)・家畜論(豚)・家畜論(綿山羊・馬)・家畜論(家禽) ②動物栄養学 ③飼料学 ④家畜管理学 ⑤草地学
- 4 ○は隔週で通年開講する科目である。
- 5 ○の実験実習(一)・(二)は, 各学生が所属する研究室に該当する実験実習科目を履修する。
- 6 化学実験, 生物学実験は隔週で実施する。
- 7 ※の外国語は在学中1カ国語のみ履修することができる。(複数の外国語の履修は認めない)

農学部 バイオセラピー学科

セラピー

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農学部 共通の 科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
		★農学原論	2	F2				農
		生命倫理	2		L2			理生
		生物学	2	F2				理必生
		化学	2	F2				理必化
		環境科学	2		L2			理化
		科学と哲学	2			F2		
		現代社会と人間	2			L2		
		経済学	2	L2				
		現代美術	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		日本国憲法	2	F2				必
		★ボランティア論	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
		選択英語(一)	2	F2				
		選択英語(二)	2	L2				
		選択英語(三)	2		F2			
		選択英語(四)	2		L2			
		英会話(一)	2			F2		
		英会話(二)	2			L2		
		ビジネス英語	2				F2	
		科学英語	2				F2	
		※中国語(一)	2		F2			
		※中国語(二)	2		L2			
		※ドイツ語(一)	2		F2			
		※ドイツ語(二)	2		L2			
		※フランス語(一)	2		F2			
		※フランス語(二)	2		L2			
	※スペイン語(一)	2		F2				
	※スペイン語(二)	2		L2				
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必	
	スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
共通基礎の科目 バイオセラピー学科	必	★バイオセラピー概論	2	F2				
	必	生物学実験	2		F4		理生	
		化学実験	2	L4			理化必	
		★生物資源学	2	L2			理生	
		★生物保全学	2		L2		理生	
		生物統計学	2		L2		理生	
		★植物生理・生態学	2		F2		理生	
		家畜生理・生体機構学	2		L2		農	
	動物遺伝学	2	F2			理生		

区分類の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
48単位	76単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
共通基礎の科目 バイオセラピー学科		★生物活用レクリエーション論	2			F2		
		★健康福祉概論	2		L2			
		★人の心理と生理(一)	2		F2			
		★人の心理と生理(二)	2		L2			
		★危機管理・救急措置	2			F2		
		★組織マネジメント論	2		L2			
		生物環境関係法規	2			L2		
		動植物園論	2			L2		理生
		自然再生技術論	2			F2		理生
		地球環境政策論	2			L2		
	必	★農業実習(一)	2	F4				農
	必	★農業実習(二)	2	L4				農
	植物共生分野の科目		植物共生学	2	F2			理生
			★人間植物関係学	2	L2			理生
		★植物育成管理論	2		F2		理生	
		★植物形態・分類学	2		L2		理生	
		社会園芸学	2		F2		農	
		都市園芸学	2		L2		農	
		★草花の育て方	2			F2	農	
		★野菜の育て方	2			L2	農	
		★果樹の育て方	2		L2		農	
		★ハーブの育て方	2		F2		農	
動物共生分野の科目		野生動物学	2	F2			理生	
		伴侶動物学	2	L2			理生	
		野生動物生態学	2	L2			理生	
		動物形態・分類学	2			F2	理生	
		伴侶動物ブリーディング論	2			F2	理生	
		家畜管理理学	2		F2		農	
	家畜行動心理学	2			L2	農		
	家畜栄養学	2		L2		農		
生物介在療法分野の科目		★園芸療法(一)	2	L2				
		★園芸療法(二)	2		F2			
		★園芸植物活用法	2			F2	農	
		★療法の場の設計と施工	2		L2			
		アニマルセラピー(一)	2	L2				
		アニマルセラピー(二)	2		F2			
		動物による心理教育	2		L2			
		★バイオセラピー評価論	2		L2			
		★看護・介護概論	2	L2				
	★人体の科学	2		F2				
総合化の科目	必	★分野別実験・実習(一)	2		L4			
	必	★分野別実験・実習(二)	2			F4		
	必	★分野別実験・実習(三)	2			L4		
	必	★分野別演習(一)	4			F4		
	必	★分野別演習(二)	4			L4		
	必	★分野別演習(三)	4				F4	
	必	★分野別演習(四)	4				L4	
		インターンシップ	1				1	
必	★卒業論文	8						

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

- ★は「登録園芸療法士」の受験資格に必要な科目である。
- 農業実習(一)・農業実習(二)は一部集中で実施する。
- ※の外国語は在学中1カ国語のみ履修することができる。
- (複数の外国語の履修は認めない)

療法士養成プログラム

セラピー

(1) プログラム設置の目的

古くは紀元前、新しくは18世紀頃から、農園芸活動は精神を病んだ人々の状態改善に有効であることが認められていたようですが、一躍脚光を浴びたのは1940年代以降、第2次世界大戦やベトナム戦争からの帰還兵に対するアメリカでの導入であったと言われています。日本では1900年初頭には精神療法・作業療法の一つとして行われていましたが、1990年代に入り、アメリカ・イギリス・カナダ等の影響を受けて園芸療法としての導入が始まり、全国各地の医療施設・福祉施設等での実践活動や人材養成の動きが活発になり、資格制度が不統一のまま今日に至り、混乱状態になっています。

障害者・高齢者ほか、支援を必要とする人々に対する園芸の療法的効果が期待されるなか、園芸療法士としての資質を確保することを目的に、人間・植物関係学会(2000年10月発足)が学会認定の園芸療法士認定制度と園芸療法士養成課程を2005年2月に公表しました。

このことを受け本プログラムでは、これまで培ってきた園芸の技に加えて、新たに導入する医療・福祉の心を併せ持つ人材の養成を目的としています。

(2) 内容

園芸療法は、医療的・福祉的支援を必要とする人々に対して提供する療法を目的とした園芸です。したがって、園芸の技術はもちろんのこと、医療・福祉の分野にも相当精通する必要があります。

植物を栽培するために必要な、植物自体を知ることはもちろんのこと、土壌・肥料・気象等の環境、病虫対策や食べ方・遊び方・飾り方などの利用法、療法のための場作り・庭造りにまで及びます。

さらに大切なことは、ここでの園芸は、何らかの支援を要する人々とともに行う園芸だと言うことです。そのため、人の体や心理・生理を知ること、福祉とは何かを知ること、療法とは何かを知ることなど、これまでの農学・園芸分野には無かった学習をします。

1,000時間の実習は各地の医療・福祉現場に出向き、療法を目的とした園芸実習と生活支援の体験実習を行います。

(3) 開講科目(学科配当科目表の★のほかに必要とする科目)

療法士養成プログラム	授業科目	単位数	配当学年	配当学期	授業科目	単位数	配当学年	配当学期
	カウンセリング論	2	3	L	生物によるリハビリテーション	2	3	F
	コミュニケーション論	2	3	F	土と肥料	2	3	F
	医学一般	2	3	F	作物病害の診断と対策	2	3	L
	医療・福祉政策	2	3	L	虫鳥獣による作物被害と対策	2	3	L
	人間生物関係の医学	2	3	L	植物のふやし方	2	3	F
	人間生物関係の精神医学	2	3	L	療法用植物の栽培	2	3	F
	生き物による作業療法	2	3	F	園芸療法実習(1,000時間)	10	4	F・L
	生き物による精神療法	2	3	L				

(4) 本プログラムの特色

① 開講の対象

本プログラムは農学部バイオセラピー学科を対象としたプログラムで開講学年は3・4年次となります。

園芸療法実習(1,000時間)を除き厚木キャンパスで開講します。

② 授業の開講について

1) 各講義科目(園芸療法実習を除く)は、原則として半期で週1時限(1コマ)開講の2単位です。

2) 園芸療法実習(1,000時間)

この1,000時間の実習は医療現場・福祉現場において医療・福祉実習と園芸療法実習を平行して実施するもので、本学との提携施設あるいは学生等からの紹介を受け、本学と提携した施設にて行ないます。実施期間は提携施設との協議により、1,000時間を前学期あるいは後学期、あるいは通年に按分して実施します。

全期間を通じ現場を体験すること、および実習期間中は1週に1度の報告書提出と、厚木キャンパスでの最終反省会・報告会に参加することを必須とします。

③ 修得単位数について

本プログラムによる修得単位は、他学部聴講により修得した単位との合計修得単位のうち30単位までを選択科目として卒業要件単位に加えることができます。なお、本プログラムによる修得単位は、年間および学期ごとの履修制限単位数には含まれません。

④ 受講料の徴収について

巡回指導費および科目履修費等のため別途約200,000円が必要になります。

(5) 登録園芸療法士資格について

「登録園芸療法士」の資格はバイオセラピー学科で所定の単位を修得し、卒業後2,000時間の実務経験を経て、人間・植物関係学会が実施する認定試験に合格することで受験資格が与えられます。

「登録園芸療法士」の受験資格取得を目指す学生は、療法士養成プログラムで開講する全科目の単位を修得するほかにバイオセラピー学科授業科目配当表にある★印のついた科目は必ず修得して下さい。

※人間・植物関係学会ホームページ<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsppr/membership/membership.htm>

(6) 履修上の注意事項

当プログラムは農学部バイオセラピー学科の学生を対象としたプログラムです。他学部・他学科の学生は履修できません。

応用生物科学部 バイオサイエンス学科

バイオ

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
応用生物科学部 共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
	必	英語(一)	2	F2				必	
	必	英語(二)	2	L2					
	必	英語(三)	2		F2				
	必	英語(四)	2		L2				
	必	英語(五)	2			F2			
			中国語(一)	2	F2				
			中国語(二)	2	L2				
			スペイン語(一)	2	F2				
			スペイン語(二)	2	L2				
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
			自然科学史	2	F2				
			哲学	2	L2				
			経済学	2	F2				
			情報基礎(一)	2	F2				必
			情報基礎(二)	2	L2				
			論理学	2	L2				
			日本国憲法	2	L2				必
			心理学	2			L2		
			メディア論	2			F2		
			民俗学	2		L2			
			知的財産概論	2			L2		
			基礎化学	2	F2				
			基礎生物学	2	F2				
			T O E I C 演習	2	F2				
			特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2						
		特別講義(三)	2						
		特別講義(四)	2						
バイオサイエンス学科 共通基礎の科目	必	無機化学	2	F2				理化	
	必	有機化学	2	F2				理化	
	必	生物学	2	F2				理生	
	必	統計学	2	F2					
	必	生命倫理	2	L2					
	必	細胞生物学	2	L2				理生	
	必	分子生物学概論	2	L2				農	
	必	生化学	2	L2				理化	
	必	分子生物学(一)	2		F2			農	
	必	食品化学	2		F2			農	
	必	無機化学実験	3		F6			理化	
	必	有機化学実験	3		F6			理化	
	必	分子生物学(二)	2		L2			農	
	必	生物物理化学	2		F2			理化	
	必	微生物学実験	3		L6			理生	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
バイオサイエンス学科 共通基礎の科目	必	生化学実験	3		L6			理化	
	必	基礎生物学実験(一)	3		L6			理生	
	必	基礎生物学実験(二)	3			F6			
	必	バイオサイエンス専攻実験(一)	3			F6		理生	
	必	バイオサイエンス専攻実験(二)	2			L4			
	必	英語論文講読	2			L2			
			数学	2	F2				
			進化論	2	F2			農	
			分子遺伝学	2			F2	農	
			食品製造学	2		L2		農	
			アイソトープ利用論	2			F2		
			生命情報科学	2			F2		
			バイオ産業概説	2			F2	農	
			バイオプロセスエンジニアリング	2			F2	農	
			起業論	2			F2		
			生物制御学	2			L2		
			生体制御学	2			L2		
			生産経営論	2			L2	農	
			食品加工実習	1			F2		
	微生物分野	必	微生物学	2		F2			
		必	微生物工学	2		L2			農
		必	食品衛生学	2			L2		農
			微生物バイオテクノロジー	2			F2		農
	植物分野の科目	必	植物生理学	2		F2			理生
		必	植物細胞工学	2		L2			農
		必	生物資源環境科学	2		F2			農
			植物生物学	2		L2			
		植物生態学	2			L2		農	
		植物生産論	2			L2		農	
	資源生物論	2			L2		農		
動物分野の科目	必	動物生理学	2		F2			理生	
	必	動物細胞工学	2		L2			農	
	必	栄養生化学	2			L2		農	
		動物発生工学	2			F2		農	
		実験動物学	2			L2		農	
		免疫学	2			F2			
生体機能分子分野の科目	必	生物有機化学	2		L2			理化	
	必	生体高分子化学	2			L2		農	
		天然生理活性物質論	2			L2		農	
総合化	必	卒業論文	8						

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
91単位	33単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を表す。

2 中国語（一）・（二）及びスペイン語（一）・（二）はいずれか一カ国語に限り選択することができる。

応用生物科学部 生物応用化学科

化学

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
応用生物科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
	必	英語(五)	2			L2		
			中国語(一)	2	F2			
			中国語(二)	2	L2			
			スペイン語(一)	2	F2			
			スペイン語(二)	2	L2			
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2			必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2			必
			自然科学史	2	F2			
			哲学	2	L2			
			経済学	2	F2			
			情報基礎(一)	2	F2			必
			情報基礎(二)	2	L2			
			論理学	2	L2			
			日本国憲法	2	L2			必
			心理学	2			L2	
			メディア論	2			F2	
			民俗学	2			L2	
			知的財産概論	2			L2	
			基礎化学	2	F2			
			基礎生物学	2	F2			
			T O E I C 演習	2	L2			
		特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2					
		特別講義(三)	2					
		特別講義(四)	2					
生物応用化学科共通基礎の科目	必	生物学	2	F2				理生
	必	無機化学(一)	2	F2				理化
	必	有機化学(一)	2	F2				理化
	必	生命倫理	2	L2				
	必	無機化学(二)	2	L2				理化
	必	基礎物理化学	2	L2				理物
	必	有機化学(二)	2	L2				理化
	必	生物化学(一)	2	L2				理化
	必	微生物学	2	L2				理生
	必	生物化学(二)	2		F2			理化
	必	環境化学	2		F2			理化
	必	分子生物学	2		F2			農
	必	天然物化学	2		F2			農
	必	食品化学(一)	2		F2			農
必	有機化学実験	3		F6			理化	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
生物応用化学科共通基礎の科目	必	分析化学実験	3		F6			理化	
	必	無機化学実験	3		F6			理化	
	必	食品化学(二)	2		L2			農	
	必	細胞生物学	2		L2			農	
	必	生物化学実験	3		L6			理化	
	必	微生物学実験	3		L6			理生	
	必	食品化学実験	3		L6			農	
	必	生体高分子化学	2			F2		理生	
			資源再生論	2	F2			農	
			生態学概論	2	F2				
			物理学	2	F2			(理物)	
			生物生産学概論	2	L2			農	
			生物工学概論	2	F2			理生	
			生物応用化学演習	2	L2				
			量子化学	2	L2			理化	
			分子遺伝学	2			F2	理生	
			実験データ解析概論	2			F2		
			生産管理概論	2			L2	農	
			有機化学(三)	2			F2	理化	
			生物化学(三)	2			L2	理化	
			アイソトープ利用論	2			F2		
			※生物応用化学実験(応用微生物学実験)	3			F6	農	
			※生物応用化学実験(食料資源理化学実験)	3			F6	農	
			※生物応用化学実験(栄養生化学実験)	3			F6	農	
			※生物応用化学実験(生物制御化学実験)	3			L6	農	
			※生物応用化学実験(植物生産化学実験)	3			L6	農	
			※生物応用化学実験(生産環境化学実験)	3			L6	農	
			食品化学(三)	2			L2	農	
			機器分析概論	2			F2	理化	
	生物生産・環境化学	必	土壌学(一)	2		L2			農
		必	植物生理学	2		L2			農
		必	肥料・植物栄養学(一)	2			F2		農
				土壌学(二)	2			F2	農
			肥料・植物栄養学(二)	2			L2	農	
			土壌微生物学	2			L2	農	
生物機能・制御化学	必	応用微生物学(一)	2		F2			理生	
	必	生物制御化学(一)	2		L2			理生	
			応用微生物学(二)	2			L2	理生	
			生物制御化学(二)	2			L2	理生	
食品機能・理化学	必	栄養生理化学(一)	2		L2			農	
	必	食品製造学(一)	2			F2		農	
	必	食品衛生学	2			L2		農	
	必	食品製造実習(一)	2			F4		農	
			栄養生理化学(二)	2			L2	農	
		食品製造学(二)	2			L2	農		

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
食品機能・理化学分野の科目		食品工学	2			L2		農
		食品製造実習(二)	2			L4		農
総合科目	必	卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す（空白は選択科目）。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
90単位	34単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を表す。
 2 中国語（一）・（二）及びスペイン語（一）・（二）はいずれか一カ国語に限り選択することができる。
 3 ※の生物応用化学実験は，所属研究室担当実験の単位を修得すること。また，2実験まで履修することができる。

応用生物科学部 醸造科学科

醸造

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
応用生物科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
	必	英語(一)	2	F2				必	
	必	英語(二)	2	L2					
	必	英語(三)	2		F2				
	必	英語(四)	2		L2				
	必	英語(五)	2			F2			
			中国語(一)	2	F2				
			中国語(二)	2	L2				
			スペイン語(一)	2	F2				
			スペイン語(二)	2	L2				
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
			自然科学史	2	F2				
			哲学	2	L2				
			経済学	2	F2				
			情報基礎(一)	2	F2				必
			情報基礎(二)	2	L2				
			論理学	2	L2				
			日本国憲法	2	L2				必
			心理学	2			L2		
			メディア論	2			F2		
			民俗学	2			L2		
			知的財産概論	2			L2		
			基礎化学	2	F2				
			基礎生物学	2	F2				
			T O E I C 演習	2	F2				
		特別講義(一)	2						
		特別講義(二)	2						
		特別講義(三)	2						
		特別講義(四)	2						
醸造科学科共通基礎の科目	必	生物学	2	F2				理生	
	必	化学	2	F2				理化	
	必	微生物学	2	F2				理生	
	必	基礎化学実験	3	F6				理化	
	必	有機化学(一)	2	L2				理化	
	必	飲食文化論	2	L2					
	必	醸造環境学	2	L2					
	必	分析化学	2	L2				理化	
	必	有機化学(二)	2		F2			理化	
	必	生化学(一)	2		F2			理化	
	必	発酵食品学	2		F2			理化	
	必	調味食品学	2		F2				
	必	生化学(二)	2		L2			理化	
	必	食品衛生学	2		L2				
必	ケミカルエコロジー	2		L2			理化		

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
醸造科学科共通基礎の科目	必	食品化学実験	3		L6			理化
	必	酵素化学	2			F2		理化
	必	生物化学工学	2			F2		
	必	栄養化学	2			F2		理化
		嗜好文化論	2	L2				
		飲酒生理学	2	L2				
		生命倫理	2		F2			
		麴学	2		L2			
		食品微生物学	2		L2			
		食品工学	2			F2		
		食品保蔵学	2			L2		
		食品機能学	2			F2		
		科学英語	2			L2		
		環境管理論	2			L2		理化
		バイオテクノロジー	2			F2		理生
		醸造科学特別実習	2				L4	
	醸造微生物学分野の科目	必	微生物学実験	3	F6			
必		酵母学	2			L2		
		醸造微生物生態学	2	L2				理生
		微生物細胞学	2		F2			理生
		微生物遺伝学	2		L2			理生
		微生物生理学	2		L2			理生
		分子生物学	2			F2		理生
		分子生物学実験	1			F2		理生
醸造技術分野の科目	必	食品化学	2	F2				理化
	必	醤油醸造学	2		L2			
	必	味噌醸造学	2		F2			
	必	清酒学	2			F2		
	必	調味料生産学実験	3			F6		
	必	酒類生産学実験	3			L6		
		食品加工学	2	L2				
		ワイン学	2		F2			
		ビール学	2			F2		
	蒸留酒学	2			F2			
	品質管理学	2			L2			
醸造環境学分野の科目	必	環境保全技術論	2		F2			理化
	必	醸造環境学実験	3		L6			理化
		環境微生物学	2		F2			理生
		公衆衛生学	2		F2			
		機器分析学	2			F2		理化
		工場管理論	3			F2		
		天然物化学	2			L2		理化
		環境化学	2			L2		理化
	生物資源リサイクル論	2			L2			

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合科目	必	卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す（空白は選択科目）。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
84単位	40単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を表す。
 2 中国語（一）・（二）及びスペイン語（一）・（二）はいずれか一カ国語に限り選択することができる。
 3 醸造科学特別実習は，集中で行う。

応用生物科学部 栄養科学科(食品栄養学専攻)

栄養

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
応用生物科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
	必	英語(五)	2			F2		
			中国語(一)	2	F2			
			中国語(二)	2	L2			
			スペイン語(一)	2	F2			
			スペイン語(二)	2	L2			
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2			必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2			必
			自然科学史	2	F2			
			哲学	2	L2			
			経済学	2	F2			
			情報基礎(一)	2	F2			必
			情報基礎(二)	2	L2			
			論理学	2	L2			
			日本国憲法	2	F2			必
			心理学	2		L2		
			メディア論	2		F2		
			民俗学	2		L2		
			知的財産概論	2		L2		
			基礎化学	2	F2			(理化)
			基礎生物学	2	F2			(理生)
			T O E I C 演習	2	L2			
		特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2					
		特別講義(三)	2					
		特別講義(四)	2					
栄養科学科食品栄養学専攻共通基礎の科目	必	微生物学	2	F2				理生
	必	※★食品学総論	2	F2				
	必	※★調理学	2	F2				
	必	基礎食品分析実験	2	F4				理化
	必	有機化学	2	L2				理化
	必	無機化学	2	L2				理化
	必	分析化学	2		F2			理化
	必	統計学	2		F2			理生
	必	食品学各論(一)	2	L2				
	必	※★食品加工学(一)	2	L2				
	必	※解剖生理学	2	L2				理生
	必	※★食品衛生学	2		F2			
	必	※★食品衛生学実験	2		F4			
	必	食品加工学(二)	2		F2			
必	★食品加工学実習	2		F4				

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
栄養科学科食品栄養学専攻共通基礎の科目	必	※給食経営管理論	2		L2				
	必	※生化学(一)	2		F2			理化	
	必	栄養生理学	2		F2			理生	
	必	※★栄養学総論	2		F2				
	必	※生化学(二)	2		L2			理化	
	必	微生物学実験	2	L4				理生	
	必	※★食品化学実験	2	L4				理化	
	必	※公衆衛生学	2			F2			
	必	機器分析学	2			F2		理化	
			生活環境概論	2	L2				
			※生化学実験	2	L4			理化	
			栄養情報処理演習	2		F2			
			※★調理学実習	2		F4			
			食品物性学	2	L2				
			※献立作成演習	2	L2				
			※栄養学各論	2	L2				
			※栄養教育論(一)	2	L2				
			※栄養教育論(二)	2		F2			
			※公衆栄養学	2		F2			
			※臨床栄養学	2		F2			
			※運動生理学	2		F2			
			★経営管理論	2		F2			
			科学英語(一)	2		L2			
			科学英語(二)	2			F2		
	食品機能学分野の科目	必	食品微生物学	2	L2				理化
		必	食品学各論(二)	2		F2			
必		★調理学実験	2		L4				
必		食品機能学	2		L2				
		★フードコーディネーター論	2		F2				
		★フーズスペシャリスト論	2		L2				
		★食品品質評価演習	2		L2				
		食品機械学	2			L2			
		比較食文化論	2			L2			
		生物工学	2			F2			
生体機能学		※解剖生理学実験	2	L4				理生	
		※分子栄養学実験	2			F4			
		※分子栄養学	2			L2			
		スポーツ栄養論	2			L2			
保健栄養学		※栄養教育実習	1			F2			
		※給食経営管理実習	1			F4			
		※健康管理概論	2			L2			
臨床栄養学		※臨床栄養学実習(一)	2			F4			
		※臨床栄養学実習(二)	2			L4			

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合化の必		※事業所実習(校外実習を含む)	1			2		
		※社会福祉論	2			L2		
		卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
76単位	48単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学部聴講で修得した単位(30単位)

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。
 2 ※は栄養士関係科目。
 3 栄養士免許を取得するためには, 栄養士関係科目を必修とする。
 4 事業所実習は校外実習。
 5 ★はフードスペシャリストの受験資格に必要な科目である。
 6 中国語(一)・(二)及びスペイン語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。

応用生物科学部 栄養科学科(管理栄養士専攻)

管理

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
応用生物科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
	必	英語(五)	2			F2		
			中国語(一)	2	F2			
			中国語(二)	2	L2			
			スペイン語(一)	2	F2			
			スペイン語(二)	2	L2			
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2			必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2			必
			自然科学史	2	F2			
			哲学	2	L2			
			経済学	2	F2			
			情報基礎(一)	2	F2			必
			情報基礎(二)	2	L2			
			論理学	2	L2			
			日本国憲法	2	F2			必
			心理学	2		L2		
			メディア論	2		F2		
			民俗学	2		L2		
			知的財産概論	2		L2		
		基礎化学	2	F2			(理)	
		基礎生物学	2	F2			(理)	
		T O E I C 演習	2	L2				
		特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2					
		特別講義(三)	2					
		特別講義(四)	2					
栄養科学科管理栄養士専攻共通基礎の科目	必	※微生物学	2	F2				理生
	必	※食品学総論	2	F2				
	必	※栄養管理学概論	2	F2				
	必	基礎食品分析学実験	2	F4				
	必	有機化学	2	L2				理化
	必	分析化学	2		F2			理化
	必	統計学	2	F2				理生
	必	食品学各論(一)	2	L2				
	必	※食品加工学(一)	2	L2				
	必	※調理学	2	L2				
	必	※解剖生理学	2	L2				理生
	必	微生物学実験	2	L4				
	必	※解剖生理学実験	2	L4				理生
	必	食品学各論(二)	2		F2			
必	※食品衛生学	2		F2				

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
栄養科学科管理栄養士専攻共通基礎の科目	必	※生化学(一)	2	F2				理化
	必	※栄養生理学	2	F2				理化
	必	※栄養学総論	2	F2				
	必	※臨床栄養学総論	2	F2				
	必	※食品衛生学実験	2	F4				
	必	※給食経営管理論(一)	2	L2				
	必	※生化学(二)	2	L2				理化
	必	※栄養教育論(一)	2	L2				
	必	※調理学実験	2	L4				
	必	※公衆衛生学(一)	2		F2			
	必	食品機能学	2		L2			理化
	必	公衆衛生学(二)	2		L2			
	必	※健康管理概論	2		L2			
			生活環境概論	2	L2			
			※基礎栄養学実験	2	L4			理化
			栄養情報処理演習	2	F2			
			※献立作成演習	2	L2			
			※公衆栄養学(一)	2		F2		
			科学英語	2			F2	
	食品機能学分野	必	食品加工学(二)	2	F2			
		必	※食品化学実験	2	L4			理化
			※食品加工学実習	2	F4			
			※調理学実習	2	F4			
		食品物性学	2	L2				
生体機能学分野		※栄養学各論(一)	2	L2				
		※栄養学各論(二)	2		F2			
		※応用栄養学実習	2		F2			
		※栄養学各論(三)	2		L2			
		※運動生理学	2		F2		理生	
		分子栄養学	2			F2		
保健栄養学分野の科目		※給食経営管理論(二)	2		F2			
		※栄養教育論(二)	2		F2			
		※健康運動論	2		F2			
		※公衆栄養学実習	2		F4			
		※給食経営管理実習	2		F4			
		※公衆栄養学(二)	2		L2			
		※栄養教育実習	2		L4			
臨床栄養学分野の科目		※臨床栄養学各論(一)	2	L2				
		※病理学	2	L2				
		※臨床栄養学各論(二)	2		F2			
		※臨床栄養学実習(一)	2		F4			
		※カウンセリング論	2		L2			
		※臨床栄養学各論(三)	2		L2			
		※臨床栄養学実習(二)	2		L4			

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
臨床栄養学		臨床生化学	2				F2	理化
		※カウンセリング演習	2				F2	
総合化の科目		※社会福祉論	2			L2		
		※総合演習	2				F2	
		※栄養管理学演習	2				L2	
		※臨地実習(一)(校外実習を含む)	1				2	
		※臨地実習(二)(校外実習を含む)	3				6	
必		卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
80単位	44単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 ※は管理栄養士関係科目。

3 管理栄養士国家試験の受験資格および栄養士免許を取得するためには, 管理栄養士関係科目を必修とする。

4 臨地実習(一)・(二)は校外実習。

5 中国語(一)・(二)及びスペイン語(一)・(二)はいずれか一カ国語に限り選択することができる。

地域環境科学部 森林総合科学科

森林

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
地域環境科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	地域環境科学概論	2	F2				農
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
	必	情報基礎(一)	2	F2				必
	必	情報基礎(二)	2	L2				技
		ドイツ語(一)	2	F2				
		ドイツ語(二)	2	L2				
		中国語(一)	2	F2				
		中国語(二)	2	L2				
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
		生物化学	2	L2				理生
		化学	2	L2				理化
		地球の環境問題	2	L2				農
		土と水の環境	2	L2				理地
		現代社会と経済	2	L2				
		人文地理学	2	L2				
	日本国憲法	2		F2			必	
	生活環境と健康	2		L2			農	
	環境学習と体験活動	2		L2			農	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
森林総合科学科 共通基礎の科目	必	森林総合科学概論	2	F2				理生
	必	測量学	2	L2				農
	必	測量実習	2		F4			農
		統計学	2		F2			
		科学英語	2			F2		
		科学英語演習	2			L2		
森林環境保全分野の科目	必	森林植物学	2	F2				農
	必	森林生態学	2		F2			理生
	必	緑化工学	2		L2			技
	必	森林保全学	2			F2		農
		森林地形地質学	2	F2				理地
		森林環境学	2		F2			理生
		野生生物管理学	2		F2			理生
		植生学	2			F2		理生
		治山工学	2			L2		農
		森林水文学	2			L2		理地

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
森林資源生産分野の科目	必	森林立地学	2		F2			農
	必	林業工学	2		L2			技
	必	造林学	2		L2			農
	必	森林土木学	2			F2		農
	必	森林土木実習	2				4	農
		森林昆虫学	2	L2				理生
		樹木生理学	2	L2				理生
		林木育種学	2		L2			理生
		樹病学	2			L2		農
		林業機械学	2			F2		農
		森林作業システム学	2				F2	技
	森林資源利用分野の科目	必	木材組織学	2	F2			
必		木材理学	2	L2				理物
必		木材工学	2		F2			技
必		林産化学	2		L2			理化
必		木材保存化学	2			L2		技
		木質材料学	2		L2			技
		きのこ学	2		L2			理生
		木材劣化生物学	2			F2		理生
		木質構造学	2			F2		技
		木質バイオマス利用学	2			L2		理化
		木材加工学	2			L2		技
		建築設計製図学	2			F2		技
		木質住環境論	2				F2	農
森林文化情報分野の科目		必	森林文化論	2	F2			
	必	測樹学	2		F2			農
	必	森林経営学	2			F2		農
	必	森林政策学	2			L2		農
		★森林情報学	2		L2			農
		民俗学	2		F2			
		地域林業経営論	2		L2			農
		森林教育学	2			F2		農
		林産物情報論	2			L2		技
		森林計画学	2			L2		農
	森林レクリエーション論	2				F2	農	
総合化の科目	必	森林学実験実習(一)	2	F4				農
	必	森林学実験実習(二)	2	L4				農
	必	森林学実験実習(三)	2		F4			農
	必	森林学実験実習(四)	2		L4			農
	必	森林総合実習(一)	1	2				
	必	森林総合実習(二)	2		4			
	必	専攻実験・演習(一)	2			F4		農
	必	専攻実験・演習(二)	2			L4		農
	必	卒業論文	8					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
81単位	43単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を示す。
 2 ドイツ語(一)・(二)及び中国語(一)・(二)はいずれか一カ国語を選択することができる。
 3 森林総合実習(一)・(二)，森林土木実習は夏季集中で行う。
 4 ★は測量士補の資格に必要な科目である。
 5 つぎの条件を満たしている学生は，卒業とともに樹木医補となる資格を有する。
 「分野別科目対応表」の7分野のうち，講義科目にあつては6分野以上を選び7科目（14単位）以上，
 実験実習科目にあつては4分野以上の科目を修得した学生

分野別科目対応表

分野	講義科目			実験科目		
	科目名	区分	単位	科目名	区分	単位
樹木の分野	森林植物学	必	2	森林総合実習(一)	必	1
樹木の生態・生理	森林生態学	必	2	森林学実験実習(三)	必	2
	樹木生理学		2			
立地・土壌	森林立地学	必	2	森林総合実習(二)	必	2
植物病理	樹病学		2			
昆虫・動物	森林昆虫学		2			
	野生生物管理学		2			
農業科学	木材保存化学	必	2			
造園学一般				森林学実験実習(一)	必	2

地域環境科学部 生産環境工学科

工学

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
地域環境科学部共通の科目	必	※フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	※地域環境科学概論	2	F2				農
	必	※英語(一)	2	F2				必
	必	※英語(二)	2	L2				
	必	※英語(三)	2		F2			
	必	※英語(四)	2		L2			
	必	※情報基礎(一)	2	F2				必
	必	※情報基礎(二)	2	L2				技
			ドイツ語(一)	2	F2			
			※ドイツ語(二)	2	L2			
			※中国語(一)	2	F2			
			※中国語(二)	2	L2			
			スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2			必
			スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2			必
			※生物學	2	F2			(理生)
			※化学	2	F2			(理化)
			地球の環境問題	2	L2			農
			※土と水の環境	2	L2			理地
			※現代社会と経済	2	L2			
			※人文地理学	2	L2			
		日本国憲法	2		F2		必	
		生活環境と健康	2		L2		農	
		※環境学習と体験活動	2		L2		農	
		特別講義(一)	2					
		特別講義(二)	2					
		特別講義(三)	2					
		特別講義(四)	2					
生産環境工学科共通基礎の科目	必	※生産環境工学概論	2	F2				
	必	※基礎数学	2	F2				
	必	※基礎数学演習	2	F2				
	必	※基礎力学	2	F2				
	必	※基礎力学演習	2	F2				
	必	※応用数学	2	L2				
	必	※応用数学演習	2	L2				
	必	※流体力学	2		F2			理物
	必	※流体力学演習	2		F2			理物
	必	※測量学	2		F2			農
	必	※測量実習	2		F4			農
	必	※応用測量学	2		L2			農
	必	※基礎実験	2		L4			技
			※統計学	2		F2		
			※作物栽培学	2		L2		
			※技術者倫理	2			L2	
			※外書講読	2			L2	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
地域資源利用分野の科目		地形地質学	2		L2			理地
		※農地環境工学	2			F2		農
		※地域資源利用学	2			F2		農
		※農村計画学	2			F2		農
		※農村環境整備学	2			L2		
		※農地保全学	2			L2		農
		※土地改良学	2			L2		農
		※資源管理制度論	2				F2	農
		国土保全学	2				F2	農
		海外農業開発工学	2				F2	農
生産環境情報・計画	必	※土壌物理学	2		F2			理物
	必	※土質力学	2		L2			理物
	必	※土質力学演習	2		L2			理物
		※気象学	2	L2				理地
		※情報処理工学	2		L2			理地
		※環境情報学	2			F2		技
		環境物理学	2			F2		理物
		※水文学	2			F2		理地
		※地水工学	2			L2		農
		※環境リモートセンシング工学	2			L2		理地
環境建設システム分野の科目	必	※構造力学	2	L2				理物
	必	※構造力学演習	2	L2				理物
	必	※水理学	2		L2			理物
	必	※水理学演習	2		L2			理物
		※土木材料学	2		F2			農
		※鉄筋コンクリート工学	2		L2			技
		※建設システム工学	2			F2		技
		※土木施工法	2			F2		
		※水利施設工学	2			L2		農
		※環境土木学	2			L2		
生産機械・エネルギー分野の科目	必	※熱力学	2	L2				理物
	必	※機械力学	2		F2			技
		計測工学	2		F2			農
		エネルギー工学	2		F2			農
		自動制御工学	2		L2			技
		電子工学	2		L2			技
		設計製図	2			F2		技
		農産プロセス工学	2			F2		技
		農業機械学	2			F2		技
		農業ロボット工学	2			L2		技
	建設機械学	2			L2		技	
	環境調節学	2			L2		農	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合化の科目	必	※専攻実験	2			F4		農
	必	※専攻演習(一)	2			L2		農
	必	※専攻演習(二)	2				F2	農
	必	※卒業論文	8				8	

区分欄の必は必修科目を表す（空白は選択科目）。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
74単位	50単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位（30単位）

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を示す。
 2 ドイツ語(一)・(二)及び中国語(一)・(二)はいずれか一カ国語を選択することができる。
 3 三年次より生産環境コース，生産基盤コース（JABEEコース）のいずれかを選択する。
 4 ※は生産基盤コース対象科目。詳しくは生産環境工学ガイドを参照。
 5 編入生のコース選択については，生産環境工学ガイドを参照。

地域環境科学部 造園科学科

造園

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
地域環境科学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2				
	必	地域環境科学概論	2	F2				農
	必	英語(一)	2	F2				必
	必	英語(二)	2	L2				
	必	英語(三)	2		F2			
	必	英語(四)	2		L2			
	必	情報基礎(一)	2	F2				必
	必	情報基礎(二)	2	L2				
		ドイツ語(一)	2	F2				
		ドイツ語(二)	2	L2				
		中国語(一)	2	F2				
		中国語(二)	2	L2				
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
		生物学	2	F2				(理生)
		化学	2	L2				(理化)
		地球の環境問題	2	L2				農
		土と水の環境	2	L2				理地
		現代社会と経済	2	L2				
		人文地理学	2	L2				
	日本国憲法	2		F2			必	
	生活環境と健康	2		L2			農	
	環境学習と体験活動	2		L2			農	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						
造園科学科共通基礎の科目	必	造園科学概論	2	F2				農
	必	造園製図実習	2	F4				農
	必	近代造園史	2		F2			
	必	造園事業と技術者倫理	2			F2		
		ランドスケープ作品論	2	L2				農
		造園実習	2		L4			
		※ランドスケープ政策論	2			L2		
		土木建築作品論	2			L2		
		外書講読(一)	2			F2		
		外書講読(二)	2			L2		
分野の科目 環境計画・設計	必	※造園計画学	2		L2			農
	必	※都市緑地計画学	2			F2		農
	必	※風景地計画学	2			F2		農
		庭園史	2	L2				農
		※都市論	2	L2				
		造形演習	2		F2			
		※ランドスケープ解析	2		F2			農
		日本庭園論	2		F2			農

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
分野の科目 環境計画・設計		ランドスケープデザイン論	2		L2			
		環境心理学	2		L2			
		※都市計画論	2			L2		
		自然保護論	2			L2		理地
		公園・レクリエーション管理論	2			L2		
		観光計画論	2				F2	
ランドスケープ資源・植物分野の科目	必	緑地生物基礎	2	F2				
	必	造園植物学	2	L2				理生
	必	造園地被学	2		F2			
	必	造園樹木学	2		F2			農
	必	造園植栽学	2		L2			農
		植栽基盤論	2		L2			農
		※緑地生態学	2		L2			理生
		フラワーランドスケピング	2			F2		農
		スポーツターフ論	2			F2		
		都市緑化技術論	2			L2		
景観建設・技術分野の科目	必	造園施設材料	2		L2			農
	必	※測量及びGIS	2		F2			農
	必	※測量実習	2			F4		農
	必	※造園工学	2			F2		農
	必	造園施工論	2			L2		農
		※景観論	2	L2				
		ランドスケープCAD演習	2	L2				
		※公園施設設計	2			L2		
		スポーツ施設論	2				L2	
	総合化の科目	必	造園基礎演習(一)	4	F4			
必		※造園基礎演習(二)	4	L4				
必		造園基礎演習(三)	4		F4			
必		造園総合演習(一)	4		L4			農
必		造園総合演習(二)	4			F4		農
必		造園総合演習(三)	4			L4		農
必		卒業論文(卒業制作)	8				8	
		造園専攻別演習(一)	2				F2	
		造園専攻別演習(二)	2					L2

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
82単位	42単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位 (30単位)

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目，Lは後学期配当科目を示す。
 2 造園総合演習(一)・(二)・(三)は隔週で行う。
 3 ドイツ語(一)・(二)及び中国語(一)・(二)はいずれか一カ国語を選択することができる。
 4 次の条件を満たしている学生は、卒業とともに樹木医補となる資格を有する。
 「分野別科目対応表」の7分野のうち、講義科目にあつては6分野以上を選び7科目(14単位)以上、
 実験実習科目にあつては4分野以上の科目を修得した学生

分野別科目対応表

分野	講義科目			実験科目		
	科目名	区分	単位	科目名	区分	単位
樹木の分野	造園樹木学	必	2	造園基礎演習(一)	必	4
樹木の生態・整理	緑地生物基礎	必	2	植物学実験		2
立地・土壌	森林立地学		2	造園専攻別演習(二)		2
	造園植栽学	必	2			
植物病理	樹病学(他学科聴講:森林総合科学科)		2			
昆虫・動物	森林昆虫学(他学科聴講:森林総合科学科)		2			
	野生生物管理学(他学科聴講:森林総合科学科)		2			
農業科学	木材保存化学(他学科聴講:森林総合科学科)		2			
造園学一般	造園科学概論	必	2	造園基礎演習(三)	必	4
	風景地計画学	必	2			

- 5 ※は造園環境情報コース対象科目。詳しくは造園科学科指針を参照。

国際食料情報学部 国際農業開発学科

開発

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
国際食料情報学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
	必	基礎英語(一)	2	F2				必	
	必	基礎英語(二)	2	L2					
	必	英会話(一)	2	F2					
	必	英会話(二)	2	F2					
	必	英会話(三)	2	L2					
	必	英会話(四)	2	L2					
			上級英会話(一)	2		F2			
			上級英会話(二)	2		L2			
			TOEFL・TOEIC演習(一)	2		F2			
			TOEFL・TOEIC演習(二)	2		L2			
			英語レポート・論文作成(一)	2			F2		
			英語レポート・論文作成(二)	2			L2		
			英語プレゼンテーション(一)	2			F2		
			英語プレゼンテーション(二)	2			L2		
			スペイン語(一)	2	F2				
			スペイン語(二)	2	L2				
			スペイン語(三)	2		F2			
			スペイン語(四)	2		L2			
			フランス語(一)	2	F2				
			フランス語(二)	2	L2				
			フランス語(三)	2		F2			
			フランス語(四)	2		L2			
			中国語(一)	2	F2				
			中国語(二)	2	L2				
			中国語(三)	2		F2			
			中国語(四)	2		L2			
			ブラジル・ポルトガル語(一)	2	F2				
			ブラジル・ポルトガル語(二)	2	L2				
			インドネシア語(一)	2	F2				
			インドネシア語(二)	2	L2				
			インドネシア語(三)	2		F2			
		インドネシア語(四)	2		L2				
		タイ語(一)	2	F2					
		タイ語(二)	2	L2					
		ハンゲル・韓国語(一)	2	F2					
		ハンゲル・韓国語(二)	2	L2					

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
国際食料情報学部共通の科目		初級日本語(一)	2	F2				
		初級日本語(二)	2	F2				
		中級日本語(一)	2	F2				
		中級日本語(二)	2	L2				
		中級日本語(三)	2	L2				
		中級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(一)	2	F2				
		上級日本語(二)	2	F2				
		上級日本語(三)	2	F2				
		上級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(五)	2	L2				
		上級日本語(六)	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		農学概論(一)	2	F2				農
		農学概論(二)	2	L2				農
		バイオテクノロジー概論	2	L2				農
		環境概論	2	L2				
		海外農業事情論	2	F2				農
		国際関係論	2	L2				
		文化人類学	2	F2				
		日本国憲法	2	L2				必
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
		日本の歴史と文化	2	L2				
		社会調査とデータ解析	2		F2			
		経済・経営のための数学	2		L2			農
		特別講義(一)	2					
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
国際農業開発学科 共通基礎の科目	必	国際農業開発学総論	2	F2				農
	必	熱帯農業総論	2	F2				農
		生物学	2	L2				(理生)
		化学	2	L2				(理化)
熱帯生物生産分野の科目	必	栽培学原論	2	L2				理生
	必	熱帯作物学総論	2	L2				農
	必	熱帯園芸学総論	2	L2				農
		熱帯食用作物学	2		F2			農
		熱帯野菜学	2		F2			農
		熱帯生物資源論	2				F2	理生
		ポストハーベスト・テクノロジー	2				L2	農
		植物学	2	L2				理生
		熱帯果樹学	2		L2			農
		有機農業論	2		L2			農
		農業統計学	2		L2			農
		熱帯花卉学	2		F2			農
		熱帯工芸作物学	2			L2		農
		作物育種学	2			L2		理生
熱帯農業環境分野の科目	必	熱帯作物保護学総論	2	L2				理生
	必	保全生物学総論	2	F2				理生
	必	農業環境科学	2	F2				農
		作物病理学	2		F2			理生
		作物害虫学	2		F2			理生
		水環境学	2			F2		理生
		熱帯地水学	2			F2		農
		熱帯農業微生物学	2			F2		農
		熱帯植物生態学	2	L2				理生
		熱帯土壌学	2		L2			農
		熱帯昆虫生態学	2			L2		理生
		熱帯雨林生態学	2			L2		理生
		砂漠緑化論	2			L2		理生
		熱帯気象学	2			L2		理地

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
農業開発経済分野の科目	必	農業経済学	2	L2				農
	必	農業開発経済学	2		L2			農
		国際フードシステム論	2		F2			
		国際食料貿易論	2			L2		農
農業協力普及分野の科目	必	農業・農村開発政策論	2		F2			農
	必	農業経営学	2		F2			農
	必	地域農業開発論	2	L2				農
	必	農業開発協力普及論	2		L2			農
	必	農村開発社会学	2	L2				農
		日本農業論	2	F2				農
		農村開発調査論	2			F2		農
		国際農業協力論	2				F2	農
		ファームシステム論	2			L2		農
		プロジェクト評価論	2				L2	農
総合化の科目	必	農業総合実習	2	F2				農
	必	農学基礎実験	2		F2			農
	必	卒業論文指導(一)	2			F2		
	必	卒業論文指導(二)	2			L2		
	必	農業専門実習	2		2			農
	必	農業開発実習	2			2		農
	必	卒業論文	4					
		農学専門実験	2			F2		農
		ファームステイ	2		2			農
		海外農業実習(一)	2			2		農
	海外農業実習(二)	2			2		農	
	海外農業実習(三)	2			2		農	

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
60単位	64単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 初級日本語(一)~(二)・中級日本語(一)~(四)及び上級日本語(一)~(六)は外国人対象とする。

開発

国際食料情報学部

国際食料情報学部 食料環境経済学科

経済

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
国際食料情報学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
	必	基礎英語(一)	2	F2				必	
	必	基礎英語(二)	2	L2					
	必	英会話(一)	2	F2					
	必	英会話(二)	2	F2					
	必	英会話(三)	2	L2					
	必	英会話(四)	2	L2					
			上級英会話(一)	2		F2			
			上級英会話(二)	2		L2			
			TOEFL・TOEIC演習(一)	2		F2			
			TOEFL・TOEIC演習(二)	2		L2			
			英語レポート・論文作成(一)	2			F2		
			英語レポート・論文作成(二)	2			L2		
			英語プレゼンテーション(一)	2			F2		
			英語プレゼンテーション(二)	2			L2		
			スペイン語(一)	2	F2				
			スペイン語(二)	2	L2				
			スペイン語(三)	2		F2			
			スペイン語(四)	2		L2			
			フランス語(一)	2	F2				
			フランス語(二)	2	L2				
			フランス語(三)	2		F2			
			フランス語(四)	2		L2			
			中国語(一)	2	F2				
			中国語(二)	2	L2				
			中国語(三)	2		F2			
			中国語(四)	2		L2			
			ブラジル・ポルトガル語(一)	2	F2				
			ブラジル・ポルトガル語(二)	2	L2				
			インドネシア語(一)	2	F2				
			インドネシア語(二)	2	L2				
			インドネシア語(三)	2		F2			
		インドネシア語(四)	2		L2				
		タイ語(一)	2	F2					
		タイ語(二)	2	L2					
		ハンブル・韓国語(一)	2	F2					
		ハンブル・韓国語(二)	2	L2					

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
国際食料情報学部共通の科目		初級日本語(一)	2	F2				
		初級日本語(二)	2	F2				
		中級日本語(一)	2	F2				
		中級日本語(二)	2	F2				
		中級日本語(三)	2	F2				
		中級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(一)	2	F2				
		上級日本語(二)	2	F2				
		上級日本語(三)	2	F2				
		上級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(五)	2	L2				
		上級日本語(六)	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				
		農学概論(一)	2	F2				農
		農学概論(二)	2	L2				農
		バイオテクノロジー概論	2	L2				農
		環境概論	2	L2				
		海外農業事情論	2	F2				農
		国際関係論	2	L2				
		文化人類学	2	F2				
		日本国憲法	2	L2				必
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
		日本の歴史と文化	2	L2				(社地)
		社会調査とデータ解析	2		F2			社公
	経済・経営のための数学	2		L2			農	
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
食料環境経済学科共通基礎の科目	必	食料環境経済学入門	2	L2				
	必	基礎演習(一)	2	F2				農
	必	基礎演習(二)	2	L2				農
	必	ミクロ経済学(一)	2	F2				社公
	必	ミクロ経済学(二)	2	L2				社公
	必	マクロ経済学	2		L2			社公
			日本農業論	2	F2			農
			食料経済学	2	L2			農
			環境経済学	2	F2			社公
			農村経済論	2	L2			農
			国際政治経済論	2	F2			社公
			農業経営学	2		F2		農
			農業史	2		F2		社地
			農業法	2		F2		農
			食生活史	2		L2		社地
			農政と農業団体	2			L2	農
			協同組合とNPO	2			F2	農
			法学入門	2	F2			(社公)
			財務諸表入門	2	L2			
			経済史	2	L2			社地
			社会経済学	2	F2			社公
			経済地理学	2	F2			社地
			消費経済学	2		L2		
			現代社会論	2		L2		社公
			公共経済学	2		F2		社公
			経営学	2		F2		社公
			金融論	2		F2		
			日本経済論	2		F2		社公
		民法(一)	2		F2		社公	
		民法(二)	2		L2		社公	
		社会政策論	2		L2		社公	
		商法	2			L2	社公	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
食料経済分野の科目	必	食料政策論	2		F2			農	
	必	食料流通論	2		F2			農	
	必	食品マーケティング論	2		L2			農	
	必	食品産業とアグリビジネス	2		F2			農	
	必	食料経済特別講義	2				F2		
	必	食品関連技術	2				F2		
			食品関係法	2			L2	農	
			外食産業論	2			L2	社公	
	環境経済分野の科目		環境政策論	2		L2			農
			環境・地域社会学	2		F2			社公
			環境経済評価	2		F2			社地
			環境会計論	2		L2			社公
		環境経済特別講義	2				F2		
		環境技術とアセスメント	2				L2		
		リサイクル経済論	2				F2	社公	
		環境法	2				L2		
都市・農村経済分野の科目			都市経済論	2		L2			社地
			地域計画論	2		F2			社地
		農村社会学	2		F2			社公	
		行政学	2		F2				
		農村政策論	2				L2	農	
		農村金融論	2				F2	農	
		都市・農村経済特別講義	2				F2		
		行政法	2				F2	社公	
	国際農業・貿易分野の科目		農業貿易論	2		F2			農
			食料資源経済論	2		L2			社地
		アメリカ・EU農業経済論	2		L2			農	
		アジア農業経済論	2		L2			社地	
		比較経済論	2				L2	社公	
		国際農業・貿易特別講義	2				F2		
		国際取引法と貿易実務	2				L2		
		国際金融論	2				L2		

経済

国際食料情報学部

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
環境経済コース	食料経済分野の科目	食料政策論	2	F2			農	
		食料流通論	2	F2			農	
		食品マーケティング論	2	L2			農	
		食品産業とアグリビジネス	2	F2			農	
		食料経済特別講義	2		F2			
		食品関連技術	2		F2			
		食品関係法	2		L2		農	
		外食産業論	2		L2		社公	
	環境経済分野の科目	必 環境政策論	2	L2			農	
		必 環境・地域社会学	2	F2			社公	
		必 環境経済評価	2	F2			社地	
		必 環境会計論	2	L2			社公	
		必 環境経済特別講義	2		F2			
		必 環境技術とアセスメント	2		L2			
		リサイクル経済論	2		F2		社公	
		環境法	2		L2			
	都市・農村経済分野の科目	都市経済論	2	L2			社地	
		地域計画論	2	F2			社地	
		農村社会学	2	F2			社公	
		行政学	2	F2				
		農村政策論	2		L2		農	
		農村金融論	2		F2		農	
		都市・農村経済特別講義	2		F2			
		行政法	2		F2		社公	
	国際農業・貿易分野の科目	農業貿易論	2	F2			農	
		食料資源経済論	2	L2			社地	
		アメリカ・EU農業経済論	2	L2			農	
		アジア農業経済論	2	L2			社地	
比較経済論		2		L2		社公		
国際農業・貿易特別講義		2		F2				
国際取引法と貿易実務		2		L2				
国際金融論		2		L2				

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
都市・農村経済コース	食料経済分野の科目	食料政策論	2	F2			農	
		食料流通論	2	F2			農	
		食品マーケティング論	2	L2			農	
		食品産業とアグリビジネス	2	F2			農	
		食料経済特別講義	2		F2			
		食品関連技術	2		F2			
		食品関係法	2		L2		農	
		外食産業論	2		L2		社公	
	環境経済分野の科目	環境政策論	2	L2			農	
		環境・地域社会学	2	F2			社公	
		環境経済評価	2	F2			社地	
		環境会計論	2	L2			社公	
		環境経済特別講義	2		F2			
		環境技術とアセスメント	2		L2			
		リサイクル経済論	2		F2		社公	
		環境法	2		L2			
	都市・農村経済分野の科目	必 都市経済論	2	L2			社地	
		必 地域計画論	2	F2			社地	
		必 農村社会学	2	F2			社公	
		行政学	2	F2				
		必 農村政策論	2		L2		農	
		必 農村金融論	2		F2		農	
		必 都市・農村経済特別講義	2		F2			
		行政法	2		F2		社公	
	国際農業・貿易分野の科目	農業貿易論	2	F2			農	
		食料資源経済論	2	L2			社地	
		アメリカ・EU農業経済論	2	L2			農	
		アジア農業経済論	2	L2			社地	
比較経済論		2		L2		社公		
国際農業・貿易特別講義		2		F2				
国際取引法と貿易実務		2		L2				
国際金融論		2		L2				

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
食料経済分野の科目		食料政策論	2	F2				農	
		食料流通論	2	F2				農	
		食品マーケティング論	2	L2				農	
		食品産業とアグリビジネス	2	F2				農	
		食料経済特別講義	2		F2				
		食品関連技術	2		F2				
		食品関係法	2		L2			農	
		外食産業論	2		L2			社公	
	環境経済分野の科目		環境政策論	2	L2				農
			環境・地域社会学	2	F2				社公
		環境経済評価	2	F2				社地	
		環境会計論	2	L2				社公	
		環境経済特別講義	2		F2				
		環境技術とアセスメント	2		L2				
		リサイクル経済論	2		F2			社公	
		環境法	2		L2				
都市・農村経済分野の科目			都市経済論	2	L2				社地
		地域計画論	2	F2				社地	
		農村社会学	2	F2				社公	
		行政学	2	F2					
		農村政策論	2		L2			農	
		農村金融論	2		F2			農	
		都市・農村経済特別講義	2		F2				
		行政法	2		F2			社公	
国際農業・貿易分野の科目	必	農業貿易論	2	F2				農	
	必	食料資源経済論	2	L2				社地	
	必	アメリカ・EU農業経済論	2	L2				農	
	必	アジア農業経済論	2	L2				社地	
	必	比較経済論	2	F2				社公	
	必	国際農業・貿易特別講義	2		F2				
		国際取引法と貿易実務	2		L2				
	国際金融論	2		L2					

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合化の科目	必	食料環境経済学演習(一)	2	F2				農
	必	食料環境経済学演習(二)	2	L2				農
	必	食料環境経済学演習(三)	2		F2			
	必	食料環境経済学演習(四)	2		L2			
	必	卒業論文演習(一)	1			F2		
	必	卒業論文演習(二)	1			L2		
	必	卒業論文	4				4	
	必	フィールド研修(一)	2	2				農
		フィールド研修(二)	2		2			
		インターンシップ	2		2			
		特別演習(一)	2	F2				
		特別演習(二)	2	L2				
		特別演習(三)	2		F2			
	特別演習(四)	2		L2				

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)

卒業要件単位数			
必修科目	コース別必修	選択	計
42単位	12単位	70単位以上	124単位以上

1 年次の後学期に4つのコースから1つのコースを選択する。その選択したコースのコース必修科目12単位は必ず修得しなければならない。

選択科目には、次の単位を加算することができる。

- ・自分の所属するコース以外のコース必修科目を履修し修得した単位
- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 初級日本語(一)～(二)・中級日本語(一)～(四)及び上級日本語(一)～(六)は外国人対象とする。

経済

国際食料情報学部

国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
国際食料情報学部共通の科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
	必	基礎英語(一)	2	F2				必	
	必	基礎英語(二)	2	L2					
	必	英会話(一)	2	F2					
	必	英会話(二)	2	F2					
	必	英会話(三)	2	L2					
	必	英会話(四)	2	L2					
			上級英会話(一)	2		F2			
			上級英会話(二)	2		L2			
			TOEFL・TOEIC演習(一)	2		F2			
			TOEFL・TOEIC演習(二)	2		L2			
			英語レポート・論文作成(一)	2			F2		
			英語レポート・論文作成(二)	2			L2		
			英語プレゼンテーション(一)	2			F2		
			英語プレゼンテーション(二)	2			L2		
			スペイン語(一)	2	F2				
			スペイン語(二)	2	L2				
			スペイン語(三)	2		F2			
			スペイン語(四)	2		L2			
			フランス語(一)	2	F2				
			フランス語(二)	2	L2				
			フランス語(三)	2		F2			
			フランス語(四)	2		L2			
			中国語(一)	2	F2				
			中国語(二)	2	L2				
			中国語(三)	2		F2			
			中国語(四)	2		L2			
			ブラジル・ポルトガル語(一)	2	F2				
			ブラジル・ポルトガル語(二)	2	L2				
			インドネシア語(一)	2	F2				
			インドネシア語(二)	2	L2				
			インドネシア語(三)	2		F2			
			インドネシア語(四)	2		L2			
		タイ語(一)	2	F2					
		タイ語(二)	2	L2					
		ハンブル・韓国語(一)	2	F2					
		ハンブル・韓国語(二)	2	L2					

ビジネス

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
国際食料情報学部共通の科目		初級日本語(一)	2	F2				
		初級日本語(二)	2	F2				
		中級日本語(一)	2	F2				
		中級日本語(二)	2	F2				
		中級日本語(三)	2	F2				
		中級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(一)	2	F2				
		上級日本語(二)	2	F2				
		上級日本語(三)	2	F2				
		上級日本語(四)	2	L2				
		上級日本語(五)	2	L2				
		上級日本語(六)	2	L2				
		情報基礎(一)	2	F2				必
		情報基礎(二)	2	L2				情
		農学概論(一)	2	F2				農
		農学概論(二)	2	L2				農
		バイオテクノロジー概論	2	L2				農
		環境概論	2	L2				
		海外農業事情論	2	F2				農
		国際関係論	2	L2				
		文化人類学	2	F2				
		日本国憲法	2	L2				必
		スポーツ・レクリエーション(一)	1	F2				必
		スポーツ・レクリエーション(二)	1	L2				必
		日本の歴史と文化	2	L2				社
		社会調査とデータ解析	2		F2			社
		経済・経営のための数学	2		L2			農
	特別講義(一)	2						
	特別講義(二)	2						
	特別講義(三)	2						
	特別講義(四)	2						

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
国際バイオビジネス学科共通基礎の科目	必	バイオビジネス学(一)	2	F2				農
	必	バイオビジネス学(二)	2	L2				農
	必	バイオビジネス経営学総論	2	F2-L2				農
	必	バイオビジネス財務諸表論	2	F2-L2				農
	必	バイオビジネスマーケティング論	2	F2-L2				農
	必	バイオビジネス経営情報論	2	F2-L2				情
	必	資源環境ビジネス論	2	F2-L2				
	必	バイオビジネス経営管理論	2		F2-L2			農
	必	バイオビジネス経営実践論(一)	2		F2			農
	必	バイオビジネス経営実践論(二)	2			L2		農
			農産物加工論	2		L2		農
			食品企業経営論	2		F2		農
			農産物・食品流通論	2		F2		農
			国際農業論	2		F2		農
			国際食料貿易論	2		F2		農
			バイオビジネス政治経済学(一)	2		F2		(社)
			バイオビジネス政治経済学(二)	2		L2		(社)
			バイオビジネスのための統計学	2		F2		
			バイオテクノロジー産業概論	2			F2	農
			ビジネス英語	2				L2
			ビジネスマナー演習	2			L2	
			キャリアデザイン演習	2			F2	
			バイオビジネス実習	2				2
			バイオビジネスインターンシップ(一)	4				4
			バイオビジネスインターンシップ(二)	4				4

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職	
				一年次	二年次	三年次	四年次		
経営・マーケティング分野の科目	必	バイオビジネス管理会計論	2		L2			社	
	必	バイオビジネス財務会計論	2		F2			社	
	必	ベンチャービジネス起業論	2		L2			社	
	必	バイオビジネス簿記演習	2		L2			情	
	必	バイオビジネス戦略論	2			F2		社	
	必	会計実務演習	2			L2			
	必	バイオビジネス法	2			F2		社	
	必	農産物・食品マーケティングサークル演習	2			L2		農	
	必	バイオビジネスケース演習	2			F2			
	必	バイオビジネスゲーム演習	2			F2			
	必	バイオビジネス問題解決技法演習	2			F2			
	経営・マーケティング分野の科目		バイオビジネス情報システム論	2			F2		(情)
			バイオビジネスネットワーク論	2		F2			(情)
			バイオビジネスモデル解析言語・基礎	2		F2			(情)
			バイオビジネスモデル解析言語・応用	2		L2			情
			農業マルチメディア論	2			L2		(情)
			e-ビジネス起業論	2			L2		
			バイオビジネスデータベース論	2			F2		情
			バイオビジネスOR	2			L2		情
			バイオビジネス情報セキュリティ論	2		L2			情
			バイオビジネス情報解析演習	2			L2		(情)
	資源環境ビジネス分野の科目		基本情報処理技術演習	2			L2		(情)
			バイオビジネス環境経済学	2		L2			社
			バイオビジネス環境論	2		L2			
			バイオビジネス地域生態論	2		F2			農
			バイオビジネス気象学	2		F2			農
		バイオビジネス環境保全論	2		F2			農	
		環境ビジネス技術論	2			L2			
		国際有機農業論	2			F2		農	
		食農教育論	2			F2		社	
		地域資源管理システム論	2			F2			
資源環境ビジネス分野の科目		資源環境NPO論	2			L2		社	
		環境保全型バイオビジネス調査演習	2			L2			
		バイオビジネス環境観測技術演習	2			L2			

ビジネス

国際食料情報学部

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
経営情報コース	経営・マーケティング分野の科目	バイオビジネス管理会計論	2	L2			社	
		バイオビジネス財務会計論	2	F2			社	
		ベンチャービジネス起業論	2	L2			社	
		バイオビジネス簿記演習	2	L2			情	
		バイオビジネス戦略論	2		F2		社	
		会計実務演習	2		L2			
		バイオビジネス法	2		F2		社	
		農産物・食品マーケティングリサーチ演習	2		L2		農	
		バイオビジネスケース演習	2		F2			
		バイオビジネスゲーム演習	2		F2			
		バイオビジネス問題解決技法演習	2		F2			
	経営情報分野の科目	必	バイオビジネス情報システム論	2		F2		情
		必	バイオビジネスネットワーク論	2	F2			情
		必	バイオビジネスモデル解析言語・基礎	2	F2			情
		必	バイオビジネスモデル解析言語・応用	2	L2			情
		必	農業マルチメディア論	2		L2		情
		必	e-ビジネス起業論	2		L2		
		必	バイオビジネスデータベース論	2		F2		情
		必	バイオビジネスOR	2		L2		情
		必	バイオビジネス情報セキュリティ論	2	L2			情
		必	バイオビジネス情報解析演習	2		L2		情
	必	基本情報処理技術演習	2		L2		情	
	資源環境ビジネス分野の科目		バイオビジネス環境経済学	2	L2			社
			バイオビジネス環境論	2	L2			
			バイオビジネス地域生態論	2	F2			
			バイオビジネス気象学	2	F2			農
			バイオビジネス環境保全論	2	F2			農
		環境ビジネス技術論	2		L2			
		国際有機農業論	2		F2		農	
		食農教育論	2		F2		社	
		地域資源管理システム論	2		F2			
		資源環境NPO論	2		L2		社	
		環境保全型バイオビジネス調査演習	2		L2			
		バイオビジネス環境観測技術演習	2		L2			

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
経営環境ビジネスコース	経営・マーケティング分野の科目	バイオビジネス管理会計論	2	L2			社	
		バイオビジネス財務会計論	2	F2			社	
		ベンチャービジネス起業論	2	L2			社	
		バイオビジネス簿記演習	2	L2			情	
		バイオビジネス戦略論	2		F2		社	
		会計実務演習	2		L2			
		バイオビジネス法	2		F2		社	
		農産物・食品マーケティングリサーチ演習	2		L2		農	
		バイオビジネスケース演習	2		F2			
		バイオビジネスゲーム演習	2		F2			
		バイオビジネス問題解決技法演習	2		F2			
	経営環境ビジネス分野の科目		バイオビジネス情報システム論	2		F2		情
			バイオビジネスネットワーク論	2	F2			情
			バイオビジネスモデル解析言語・基礎	2	F2			情
			バイオビジネスモデル解析言語・応用	2	L2			情
			農業マルチメディア論	2		L2		情
			e-ビジネス起業論	2		L2		
			バイオビジネスデータベース論	2		F2		情
			バイオビジネスOR	2		L2		情
			バイオビジネス情報セキュリティ論	2	L2			情
			バイオビジネス情報解析演習	2		L2		情
		基本情報処理技術演習	2		L2		情	
	資源環境ビジネス分野の科目	必	バイオビジネス環境経済学	2	L2			社
		必	バイオビジネス環境論	2	L2			
		必	バイオビジネス地域生態論	2	F2			
		必	バイオビジネス気象学	2	F2			農
		必	バイオビジネス環境保全論	2	F2			農
必		環境ビジネス技術論	2		L2			
必		国際有機農業論	2		F2		農	
必		食農教育論	2		F2		社	
必		地域資源管理システム論	2		F2			
必		資源環境NPO論	2		L2		社	
必		環境保全型バイオビジネス調査演習	2		L2			
必		バイオビジネス環境観測技術演習	2		L2			

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数				教職
				一年次	二年次	三年次	四年次	
総合化の科目	必	実地研修ゼミナール	2		F2			
	必	バイオビジネス実地研修	2		2			農
	必	卒業論文演習(一)	2			F2		
	必	卒業論文演習(二)	2			L2		
	必	卒業論文	4					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)

経営・マーケティングコース

卒業要件単位数			
必修科目	コース別必修	選択	計
46単位	22単位	56単位以上	124単位以上

経営情報コース

卒業要件単位数			
必修科目	コース別必修	選択	計
46単位	22単位	56単位以上	124単位以上

資源環境ビジネスコース

卒業要件単位数			
必修科目	コース別必修	選択	計
46単位	24単位	54単位以上	124単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

- ・自分の所属するコース以外のコース必修科目を履修し修得した単位
- ・他学部聴講・英語による専門教育プログラム・特別活動プログラムで修得した単位のうち30単位
- ・他学科聴講で修得した単位(30単位)

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 初級日本語(一)～(二)・中級日本語(一)～(四)及び上級日本語(一)～(六)は外国人対象とする。

英語による専門教育プログラム関係科目

(1) プログラム名

Special Program (Conducted in English) : Agriculture, Food and Environment

(2) 目的

本学には、多数の留学生および海外姉妹校からの交換留学生を受け入れており、本学の高度な専門教育を効率的に学習させるためには英語による授業が望ましいと考えられます。さらに、国際社会に飛び立つ日本人学生にとっては英語で専門分野を理解する能力が不可欠です。このようなグローバル化時代に対応した大学教育の必要性から本プログラムを実施します。

(3) 内容

本学は、食料、環境、健康、資源エネルギーという人類の課題に対して、農学および関連領域から貢献する人材の育成を目指しています。3キャンパス6学部19学科体制の下で専門的な教育研究を実施し多大な成果をあげてきましたが、これらの課題は相互に関連するもので、学際的アプローチも重要です。たとえば食料問題は食料の生産・分配・消費に関する諸問題の総称ですが、食料生産は農業や食品加工業によって遂行され、自然環境、農業技術、食品加工技術などと深く関わってきます。分配は市場経済メカニズムだけでなく保蔵技術の改良によって流通範囲が拡大しつつあります。消費には所得水準のみならず地域固有の食文化が反映されます。

近年の人口増加に見合う食料の増産は現代農学の顕著な成果でしたが、同時に環境負荷の増大や食の安全性の危惧が表面化してきました。今日、環境保全や安全食料の確保の必要性が世界的規模で認識されています。そこで、農業、食料、環境について、広義の農学的視点から基礎知識の修得を目指す全学共通プログラムを開講します。

まさに、食料と環境についての基礎知識を総合的に習得することは、21世紀の人類繁栄に貢献することにつながります。修得者の国際貢献を推進するため、世界共通語である英語を使用言語として実施します。国際的な活動を志向する日本人学生の英語力と専門的知識の向上を図るとともに、特に欧米などからの留学生や海外姉妹校からの交換留学生にとっては、日本やアジアの食料・農業・農村・環境・文化を概観できる機会となるよう講義・見学などの内容に配慮します。

(4) 開講科目

科目一覧表のとおり

(5) 本プログラムの特徴

① すべて英語による授業

本プログラムは、本学の専門教育をすべて英語によって実施するものです。単に語学教育のプログラムではないので注意して下さい。

② すべての学生を対象に開講

本プログラムは5学部全学科を対象としたオープンプログラムで、開講学年はフリーです。フィールドスタディ等学外で実施する科目を除き、当面は世田谷キャンパスで実施します。

③ BasicからAdvancedまで開講

本プログラム科目は、比較的やさしいレベルの科目からより高度なレベルの科目まで開講されます。自分の英語力にあわせて履修を考えて下さい。

④ 授業の開講について

各講義科目は、半期で週1時限（1コマ）開講の2単位です。

「Environment and Landscape of Japan」は、視察があります。

「Environment Conservation in Asia」は、演習があります。

「Field Study of Food and Environment」, 「Group Approach to Food and Environment」,

「Sustainable Agriculture in Asia」は、集中授業となります。

⑤ 修得単位数について

学則第15条の3に規定するとおり、他学部聴講により修得した単位との合計修得単位のうち30単位までを選択科目として卒業要件単位に加えることができます。

⑥ 試験について

通常の授業時間に実施します。

⑦ 視察、演習、実験・実習およびフィールドスタディは実費を徴収します。

(6) 履修上の注意事項

自分の英語能力にあわせて履修を考えましょう。学年を問わずいつでも履修できますので、英語能力アップを計った上で履修が可能です。

Special Program (Conducted in English): Agriculture, Food and Environment の 科 目 一 覧 表

(平成20年度開講)

Basic (recommended for 1~2 year students)				
科 目 名	配 当 学 年	配 当 学 期	単 位 数	担 当 教 員
Principles of Environment and Agriculture	1~4	L	2	坂口栄一郎(工学),三原真智人(工学), 小梁川雅(工学),渡邊文雄(工学), 島田沢彦(工学),藤川智紀(工学)
Food and Environment in Economic Development	1~4	F	2	板垣啓四郎(開発),高根務(開発)
Environment and Landscape of Japan *1	1~4	F	2	鈴木誠(造園),高橋新平(造園)
Japanese Agricultural Development	1~4	F	2	藤本彰三(ビジネス),井形雅代(ビジネス)
Comparative Developing Agriculture	1~4	L	2	藤本彰三(ビジネス),三簾久夫(開発), 稲泉博己(ビジネス)
Environment Conservation in Asia *2	1~4	F	2	佐藤孝吉(森林),中村幸人(森林), 菅原泉(森林),上原巖(森林), 大林宏也(森林),稲泉博己(ビジネス)
Farmers and Consumers in Japan	1~4	L	2	堀内久太郎(開発),杉原たまえ(開発), 岩本純明(開発)
Food and Culture	1~4	L	2	Janet S. Denny(国際学部教養分野)
Advanced (recommended for 3~4 year students)				
Food and Nutrition	1~4	F	2	上原万里子(栄養),千葉桜拓(バイオ), 田中越郎(栄養),山本祐司(化学), 佐藤英一(化学)
Global Food Systems	1~4	F	2	小島泰友(経済),白石正彦
Agricultural Trade	1~4	L	2	立岩壽一(経済),白石正彦
Environment, Society and Culture	1~4	F	2	Janet S. Denny(国際学部教養分野)
Ecology and Food Production	1~4	L	2	宮浦理恵(ビジネス)
Comparative Food Production Technologies	1~4	L	2	志和地弘信(開発),高橋久光(開発), 夏秋啓子(開発),藤垣順三(短生), 小塩海平(開発),入江満美(開発), 入江憲治(開発)
Common (recommended for 1~4 students)				
Field Study of Food and Environment *3	1~4	S	2	藤本彰三(ビジネス),稲泉博己(ビジネス)
Group Approach to Food and Environment *4	1~2	S	2	藤本彰三(ビジネス)
Sustainable Agriculture in Asia *4	1~2	S	2	藤本彰三(ビジネス)

*1, 視察を伴う。*2, 実習を伴う。

*3, Japanese Agricultural Developmentを合わせて履修すること。集中実習で行う。

*4, 集中実習を行う。1, 2年生のみ履修可能。

全学共通科目

日本語

- 日本語（一）・（二）は、外国人留学生及び帰国子女に限り履修することができます。
※国際食料情報学部の外国人留学生及び帰国子女は、全学共通科目を履修することができません。学部共通授業科目の日本語を履修して下さい。
- 日本語（一）・（二）の修得単位は、選択科目の単位として卒業要件単位に加えることができます。
- 履修手続き方法は、「履修のてびき」（別冊）を参照して下さい。

科目区分	授業科目	単位数	週時間数				備考
			一年次	二年次	三年次	四年次	
選択科目	日本語（一）	2	F2				履修することができる者は、外国人留学生及び帰国子女に限る
	日本語（二）	2	F2				

特別活動プログラム

当プログラム設置の目的

学生諸君が取り組んでいるクラブ活動や社会活動など様々な活動を、本学の「個性ある教育」および人格形成や社会性の涵養など人間教育的観点から意義あるものと位置づけ、積極的に評価し、その単位化を計ることを目的とします。また、これらの活動を単位化することにより、学生諸君の取り組み姿勢を明確にするとともにその内容や意欲のより一層の充実を図ることを合わせて目的とします。

対象とする諸活動

活動区分	対象とする具体的活動
(1) クラブ活動（一）～（四）	体連、文連、総務、応援団、学科統一本部、同好会
(2) 国際学生交流活動（一）～（四）	学生サミット、留学生支援、大学間交流支援など
(3) 環境マネジメント活動（一）～（四）	ISO、学内外環境管理活動
(4) ボランティア活動（一）～（四）	地域貢献、国際貢献、環境保全、NPO活動、学習支援活動（小・中学校・クラブ活動支援）、福祉活動（高齢者・障害者介護支援）など

単位認定の特色とカリキュラム上の位置づけ

本活動に関する単位認定の特徴は、通常の科目のように教員の教育目標やシラバスに基づき行う講義や実験・実習、その成績評価のシステムではなく、学生自らが主体的に取り組んだ活動について、学生本人が、活動の責任者の承認を受け単位認定を申請するシステムであることです（履修申請は不要、活動の指導者、責任者が一括承認も可とする）。最終的には、学生の申請書類（活動記録等）をもとに単位認定委員会が審査し単位認定を行います。

なお、単位数は1年（あるいは短期集中1活動）を1単位とし、申請は単年度申請とします。同一年度における同一活動区分での複数申請は行えません。修得総単位数のうち、4単位が卒業要件として認められます。

また、取得した単位は「英語による専門教育プログラム」と同様、卒業要件として他学部聴講30単位に含むものとします。また、当プログラムによる修得単位は、年間および学期ごとの履修制限単位数には含みません。

申請書類提出の手順について

履修のてびき・学生ポータルサイトを参照のこと。

教職・學術情報課程

教 職 課 程
學 術 情 報 課 程

教 職 課 程

教職課程履修にあたっては、免許状取得のための単位だけを修得すればよいという安易な考え方ではなく、学校教育は新しい時代を担う生徒の育成にかかわるものであるだけに、教員になることを前提として資質の向上を図るよう取り組むべきです。

1 本学で取得できる免許状

本学で取得できる免許状は、下記のとおりです。

学科別免許状取得教科一覧

(1) 各学部

○普通免許状

学 科	中 学 (一 種)	高 校 (一 種)
農学部 農学科 畜産学科 バイオセラピー学科	理科 理科 理科	理科・農業 理科・農業 理科・農業
応用生物科学部 バイオサイエンス学科 生物応用化学科 醸造科学科 栄養科学科 食品栄養学専攻 管理栄養士専攻	理科 理科 理科 理科 理科	理科・農業 理科・農業 理科 理科 理科
地域環境科学部 森林総合科学科 生産環境工学科 造園科学科	理科・技術 理科・技術 理科	理科・農業 理科・農業 理科・農業
国際食料情報学部 国際農業開発学科 食料環境経済学科 国際バイオビジネス学科	理科 社会 社会	理科・農業 地歴・公民・農業 情報・農業

○栄養教諭

学 科	
応用生物科学部 栄養科学科 管理栄養士専攻	一種免許状

(2) 大学院農学研究科

専 攻	課 程	中学専修	高校専修
農学専攻, 農業経済学専攻, 農芸化学専攻 林学専攻, 畜産学専攻, 農業工学専攻 国際農業開発学専攻, 造園学専攻 バイオサイエンス専攻, 国際バイオビジネス学専攻	博士前期		農 業
食品栄養学専攻, 醸造学専攻		理 科	理 科

2 教員免許状取得のための基礎資格および最低修得単位数

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法第5条（別表1・2）の規定により定められた基礎資格と大学における教職に関する科目、教科（ないし栄養に係る教育）に関する科目、教科（ないし栄養に係る教育）又は教職に関する科目等について所定の単位を修得しなければなりません。

特に注意しなければならないことは、本学を卒業するために必要な条件と教育職員免許状取得に必要な条件とはそれぞれ別な基準に属していることです。従って、あらかじめ自己の進路を十分に考えて教職課程を最後まで履修する決意のできた者が志望することです。また、教職課程を履修する場合には、在学中の4年間の学習計画を十分に立てておく必要があります。

別表1 教育職員免許法第5条別表第1（抜粋）

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において必要とする最低修得単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目
中学校 教諭	専修免許状	修士の学位を有すること	20	31	32
	一種免許状	学士の学位を有すること	20	31	8
	二種免許状	学校教育法69条の2第7項に定める準学士の称号を有すること	10	21	4
高等学校 教諭	専修免許状	修士の学位を有すること	20	23	40
	一種免許状	学士の学位を有すること	20	23	16

※中学校・高等学校一種免許状は、上記表の「教科に関する科目」「教職に関する科目」「教科又は教職に関する科目」について、大学において必要とする最低必要修得単位数を満たし、免許教科ごとに59単位修得しなければなりません。

※中学校二種免許状の基礎資格は「大学に2年以上在学し、62単位以上取得した者」も含まれています。

別表2 教育職員免許法第5条別表第2の2（抜粋）

所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において必要とする最低修得単位数		
			栄養に係る教育に関する科目	教職に関する科目	栄養に係る教育又は教職に関する科目
栄養 教諭	一種免許状	学士の学位を有すること、かつ、管理栄養士の免許を受けていること。	4	18	
	二種免許状	学校教育法69条の2第7項に定める準学士の称号を有すること及び栄養士の免許を受けていること	2	12	

3 教職課程の内容

本学の教職課程の目的は、その建学の精神に則り、教員としての主要な資格要件を満たす卒業生を社会に送り出すことにあります。別表1に基づき、本学では最低修得単位数を以下のように定めています。

(1) 教職に関する科目

教育職員免許状取得に必要な教職に関する科目ならびにその単位数は次頁の表のとおりです。

教職に関する科目

教 職 科 目	授 業 科 目	単 位 数
必 修 科 目	教 職 概 論	2
	教 育 原 理	2
	教 育 心 理 学	2
	特 別 活 動 論	2
	教 育 方 法 論	2
	生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2
	教 育 相 談 論	2
	総 合 演 習	2
	教 育 実 習 I	3
	教育実習Ⅱ（中学校免許取得者は必修）	2
	道徳教育論（中学校免許取得者は必修）	2
	教育課程論（栄養教諭免許取得者は必修）	2
	栄養教諭実習（栄養教諭免許取得者は必修）	2
選 択 必 修 科 目 I	教 育 制 度 概 論	2
	教 育 行 政 論	2
選 択 必 修 科 目 II	理 科 教 育 法 I	2
	理 科 教 育 法 II	2
	理 科 教 材 研 究 I	2
	理 科 教 材 研 究 II	2
	社 会 科 ・ 地 歴 科 教 育 法	2
	社 会 科 ・ 地 歴 科 教 材 研 究	2
	社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法	2
	社 会 科 ・ 公 民 科 教 材 研 究	2
	農 業 科 教 育 法	2
	農 業 科 教 材 研 究	2
	技 術 科 教 育 法 I	2
	技 術 科 教 育 法 II	2
	技 術 科 教 材 研 究 I	2
	技 術 科 教 材 研 究 II	2
	情 報 科 教 育 法	2
情 報 科 教 材 研 究	2	
合 計	中 学 校 免 許 取 得 の 場 合	31
	高 校 免 許 取 得 の 場 合	23

※必修科目教育課程論と栄養教諭実習は栄養教諭免許取得希望者のみ履修することができます。

※選択必修科目Ⅰは、いずれか1科目が必修となります。なお、2科目とも修得した場合は、教科または教職に関する科目としてカウントされます。

※選択必修科目Ⅱ中の教科教育法及び教材研究は、取得する免許教科ごとに修得しなければなりません。（必修科目）

教育職員免許状を取得するための前提条件

教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法施行規則第66条の6により「英語(一)」（国際食料情報学部は基礎英語(一)）、「情報基礎(一)」,「日本国憲法」,「スポーツ・レクリエーション(一)・(二)」を必ず修得しなければなりません。

教育実習派遣の条件

- (1) 「教職概論」「教育原理」「教育心理学」「総合演習」「日本国憲法」「スポーツ・レクリエーション(一)・(二)」の合計12単位を3年次までに修得済みであること。
- (2) 派遣までに必要な教育実習指導を受講済みであること。

(2) 教科に関する科目

A 理科の場合（該当学科：農学・畜産・セラピー・バイオ・化学・醸造・栄養・管理・森林・工学・造園・開発）

授 業 科 目		単 位 数											
		農学	畜産	セラピー	バイオ	化学	醸造	栄養	管理	森林	工学	造園	開発
必修科目	①物理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	②物理学実験（コンピュータ活用を含む）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	③化学												
	④化学実験（コンピュータ活用を含む）	1								1	1	1	1
	⑤生物学												
	⑥生物学実験（コンピュータ活用を含む）					1	1	1	1	1	1	1	1
	⑦地学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑧地学実験（コンピュータ活用を含む）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
所属学科の授業科目の必修及び選択で「理」とついて いる科目の中から取得する単位数		13 以上	14 以上	14 以上	14 以上	15 以上	13 以上	13 以上	13 以上	12 以上	12 以上	12 以上	12 以上
合 計		20以上											

※下記の科目については、必ず履修し、単位を取得して下さい。なお、この単位は上表の「理」とついた科目から取得する単位数に含まれます。

学 科	授業科目	単位数
農 学 科	化 学	2
	生 物 学	2
畜 産 学 科	化 学	2
	生 物 学	2
バ イ オ セ ラ ピ ー 学 科	化 学	2
	化 学 実 験	2
	生 物 学	2
生 物 応 用 化 学 科	物 理 学	2
栄 養 学 科 (食 品 栄 養 学)	基 礎 化 学	2
	基 礎 生 物 学	2
栄 養 学 科 (管 理 栄 養 士)	基 礎 化 学	2
	基 礎 生 物 学	2
森 林 総 合 学 科	化 学	2
	生 物 学	2
生 産 環 境 工 学 科	化 学	2
	生 物 学	2
造 園 科 学 科	化 学	2
	生 物 学	2
国 際 農 業 開 発 学 科	化 学	2
	生 物 学	2

B 社会の場合（該当学科：経済・ビジネス）

授 業 科 目		単位数
必修科目	日本の歴史と文化（国際食料情報学部共通科目）	2
	② 外 国 史	2
	② 地 理 学	2
	② 地 誌	2
	法学入門（食料環境経済学科で開講）	2
	② 哲 学	2
	② 倫 理 学	2
② 人文地理学，② 自然地理学及び所属学科の授業科目の必修及び選択で「社」としている科目の中から取得する単位数 ※国際バイオビジネス学科は，バイオビジネス政治経済学（一）バイオビジネス政治経済学（二）が必修		6単位以上
合 計		20単位以上

C 地理歴史の場合（該当学科：経済）

授 業 科 目		単位数
必修科目	日本の歴史と文化（国際食料情報学部共通科目）	2
	② 外 国 史	2
	② 人 文 地 理 学	2
	② 自 然 地 理 学	2
	② 地 誌	2
② 地理学及び所属学科の授業科目の必修及び選択で「地」としている科目の中から取得する単位数		10単位以上
合 計		20単位以上

D 公民の場合（該当学科：経済）

授 業 科 目		単位数
必修科目	法学入門（食料環境経済学科で開講）	2
	② 哲 学	2
	② 倫 理 学	2
所属学科の授業科目の必修及び選択で「公」としている科目の中から取得する単位数		14単位以上
合 計		20単位以上

E 農業の場合（該当学科：農学・畜産・セラピー・バイオ・化学・森林・工学・造園・開発・経済・ビジネス）

授 業 科 目		単位数
必修科目	② 職 業 指 導	2
所属学科の授業科目の必修及び選択で「農」としている科目の中から取得する単位数		18単位以上
合 計		20単位以上

F 技術の場合（該当学科：森林・工学）

授 業 科 目		単位数
必修科目	①木材加工（製図及び実習を含む）	2
	②金属加工（製図及び実習を含む）	2
	③機械（実習を含む）	2
	④電気（実習を含む）	2
	⑤栽培（実習を含む）	2
	⑥情報とコンピュータ（実習を含む）	2
所属学科の授業科目の必修及び選択で「技」とついている科目の中から取得する単位数		8単位以上
合 計		20単位以上

G 情報の場合（該当学科：ビジネス）

授 業 科 目		単位数
必修科目	①情報社会及び情報倫理	2
	バイオビジネスモデル解析言語・基礎	2
	バイオビジネス情報システム論	2
	基本情報処理技術演習	2
	バイオビジネスネットワーク論	2
	情報基礎（二）	2
	農業マルチメディア論	2
	バイオビジネス情報解析演習	2
	②情報と職業	2
所属学科の授業科目の必修及び選択で「情」とついている科目の中から取得する単位数		2単位以上
合 計		20単位以上

H 栄養教諭の場合（該当学科：管理）

授 業 科 目		単位数
必修科目	①栄養教諭論（一）	2
	②栄養教諭論（二）	2
合 計		4単位

(3) 教科又は教職に関する科目

授 業 科 目		単位数
①福祉概論（中学校免許取得者は必修）		2
②視聴覚教育法		2
「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」の最低修得単位数を超えて修得した単位	中学	6単位以上
	高校	16単位以上
合 計	中学	8単位以上
	高校	16単位以上

4 教職課程授業科目配当表

平成18年4月改正 No.1

必修 選択	別	授 業 科 目	単 位 数	週時間数				開講学科								備 考						
				一 年 次	二 年 次	三 年 次	四 年 次	農畜 学産	セラ ピイ 1オ	バ イ オ 学 造 養	化 学 管 理	栄 養 学	森 林 学	工 学 園 発 達	造 園 学		開 発 学	経 済 学	ビ ジ ネ ス			
教 職 に 関 す る 科 目	必 修 科 目	教 職 概 論	2	L2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		教 育 原 理	2	L2				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教 育 心 理 学	2		F2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		特 別 活 動 論	2			F2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教 育 方 法 論	2		L2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		生 徒 ・ 進 路 指 導 論	2			F2 L2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教 育 相 談 論	2			L2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		総 合 演 習	2			F2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教 育 実 習 I	3				2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		教 育 実 習 II	2				2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中学必修
		道 徳 教 育 論	2		L2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中学必修
		教 育 課 程 論	2		F2																	栄養教諭必修
	栄 養 教 諭 実 習	2				2																栄養教諭必修
	選 科 目 I 必 修	教 育 制 度 概 論	2		F2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	栄養教諭必修
		教 育 行 政 論	2		L2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	選 択 必 修 科 目 II	理 科 教 育 法 I	2			F2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		理 科 教 育 法 II	2			L2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		理 科 教 材 研 究 I	2		F2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		理 科 教 材 研 究 II	2		L2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		社 会 科 ・ 地 歴 科 教 育 法	2			F2																○
社 会 科 ・ 地 歴 科 教 材 研 究		2			L2																○	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法		2			F2																○	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 材 研 究		2			L2																○	
農 業 科 教 育 法		2			F2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
農 業 科 教 材 研 究		2			L2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
技 術 科 教 育 法 I		2			F2																○	
技 術 科 教 育 法 II		2			L2																○	
技 術 科 教 材 研 究 I		2			L2																○	
技 術 科 教 材 研 究 II		2				F2															○	
情 報 科 教 育 法	2			F2																○		
情 報 科 教 材 研 究	2			L2																○		
教 科 に 関 す る 科 目	理 科	物 理 学	2	L2			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		物 理 学 実 験 (コンピユータ活用を含む)	1		F2 L2		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		化 学	2	L2																		
		化 学 実 験 (コンピユータ活用を含む)	1		F2 L2		○															○
		生 物 学	2	L2																		
		生 物 学 実 験 (コンピユータ活用を含む)	1		F2 L2																	○
		地 学	2	L2																		
地 学 実 験 (コンピユータ活用を含む)	1				F2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			

必修 選択	別	授 業 科 目	単 位 数	週時間数				開講学科								備 考			
				一 年 次	二 年 次	三 年 次	四 年 次	農 畜 学 産	セ ラ ピ ー 学	バ イ オ 学	化 学 造 養	醸 造 理 学	管 理 学	森 林 学	工 学 園 発		造 開 発	経 済	ビ ジ ネ ス
教科 に 関 す る 科 目	社 会	日本の歴史と文化	2	F2													○○	学部共通	
		外 国 史	2	L2														○○	
		地 誌	2				F2											○○	
		地 理 学	2		F2													○○	
		法 学 入 門	2	F2														○○	食料環境 経済学科
		倫 理 学	2		L2													○○	
		哲 学	2		F2													○○	
	地 理 歴 史	日本の歴史と文化	2	F2														○	学部共通
		外 国 史	2	L2														○	
		人 文 地 理 学	2		F2													○	
		自 然 地 理 学	2		L2													○	
		地 誌	2				F2											○	
	公 民	法 学 入 門	2	F2														○	食料環境 経済学科
		倫 理 学	2		L2													○	
		哲 学	2		F2													○	
	農 業	職 業 指 導	2			L2				○○○○○				○○○○○○○					
	技 術	木 材 加 工 (製図及び実習を含む)	2	L2														○○	
		金 属 加 工 (製図及び実習を含む)	2	L2														○○	
		機 械 (実習を含む)	2		F2													○○	
		電 気 (実習を含む)	2		L2													○○	
		* 栽 培 (実習を含む)	2		F2													○○	
		情 報 と コ ン ピ ュ ー タ (実習を含む)	2	L2														○○	
	情 報	情報社会及び情報倫理	2		F2													○	
		バイオビジネスモデル解析言語・基礎	2		F2													○	
		バイオビジネス情報システム論	2				F2											○	
		基本情報処理技術演習	2				L2											○	
		バイオビジネスネットワーク論	2		F2													○	
情 報 基 礎 (二)		2	L2														○		
農業マルチメディア論		2				L2											○		
バイオビジネス情報解析演習		2				L2											○		
情 報 と 職 業	2		L2													○			
栄 養 教 諭	栄 養 教 諭 論 (一)	2			F2												○		
	栄 養 教 諭 論 (二)	2			L2												○		
教科又は 教職に 関する 科目	福 祉 概 論	2		F2													○○○○○○○○○○○○○○○○○○	中学必修	
	視 聴 覚 教 育 法	2			L2												○○○○○○○○○○○○○○○○○○		

*実習分は夏季集中

全教科 (必修)	授業科目	単位数	開講学科	備考
			農畜セラピー学 畜産バイオ学 化学造 醸造養理 栄養林学 管工造 森園 開経 発済 ビジネス	
	日本国憲法	2	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	スポーツ・レクリエーション(一)	1	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	スポーツ・レクリエーション(二)	1	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	英語 (一)	2	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	開発・経済・ビジネスは基礎英語(一)
	情報基礎 (一)	2	○○○○○○○○○○○○○○○○○○	

5 教職課程受講手続

(1) 教職課程の履修登録

教職課程は1年次後学期から履修が始まる関係上、教職課程履修登録は1年次に行うことになっています。教職課程の履修登録を希望する者は、所定の手続き（作文を含む）をしたうえで、後日配付される納付書により受講料を納入して下さい。受講料が期限内に納入されない場合は登録を取り消します。

登録をした教科の削除、変更などはできません。

※履修登録手続きの詳細については「履修のてびき」を参照して下さい。

(2) 教職課程受講料

1 免許教科 120,000円

2 免許教科 140,000円

3 免許教科 160,000円

4 免許教科 180,000円

注 意 ① この受講料は教育実習費を含んでいます。

② 中学理科，高校理科を履修する場合は，1教科で120,000円となります。

③ 受講料は一括払いで卒業するまで有効です。

6 教職課程履修上の留意点

教員免許状を取得するためには既に述べたように卒業に必要な条件を満たし、あわせて教職課程で定められた科目の単位を修得しなければなりません。単位の中には一部卒業単位と重複する部分もありますが、教職課程はあくまでも選択なので卒業単位の修得があやぶまれるような状態のときは卒業単位の方を優先しなければなりません。仮に教員免許状取得に必要な単位を卒業時までには修得できなかったとしても卒業後に科目等履修生として在籍し、不足の単位を充足させれば教員免許状が取得できます。

なお、科目等履修生の手続については毎年3月下旬に説明会を行っています。

科目等履修生

学則

(科目等履修生)

第40条 本大学所定の授業科目の1又は複数の授業科目の履修を願出する者があるときは、学生の学習をさまたげない場合に限り科目等履修生（以下「履修生」という。）として履修を許可することがある。

2 履修生の履修許可期間は、1年度以内とする。

(履修生の試験及び単位授与)

第41条 履修生は、その履修した授業科目について試験を受けることができる。

2 試験に合格した履修生には、その授業科目の所定の単位を与える。

3 前項の単位修得について、本人の請求により単位修得証明書を発行する。

履修資格（教職）

① 本学（学部）卒業者で、当該科目を履修する能力があると認められる者。

② 他大学卒業者で、免許状を取得しており、免許教科の追加取得を希望する者。

※但し、①②について選考のうえ履修を許可する。

7 教員を希望する学生へ

本学では例年300人以上の学生が免許状を取得しています。農学系では伝統があり、多くの卒業生が農業高校を中心に、普通高校・中学校・小学校等で活躍しています（小学校免許状は、本学では取得できないので、卒業後、他大学で聴講し取得）。

過去3ヵ年の卒業時の教育関係（中・高校教員，臨時教員を含む）への就職者数は、毎年約90人ほどです。

理科・社会科の免許状は、比較的多くの大学で取得できますが、農業科・技術科・情報科の免許状は取得できる大学に限りがあります。また、農業科・技術科と理科を同時に取得できる大学も、他にあまりありません。このような状況から、本学の農業科教員への就職率は比較的高くなっています。また、栄養科学科管理栄養士専攻では平成17年度入学生から栄養教諭1種免許状の取得ができる様になりました。

教員採用時には単科の免許保有者より、複数教科の免許保有者のほうが採用されやすいということもありますので、教職課程履修申込時にはこのことを充分考慮すべきです。

(1) 公立学校の教員になるには

- 一般に教員採用試験は次年度の教員採用候補者を選考するために行われています。したがって最終合格により採用候補者名簿に登載されても、直ちに採用されるものではありません。
- 採用試験は各都道府県と政令指定都市等で実施される1次試験については、例年ほとんどの都道府県が7月上旬に実施しています。
- 試験内容については1次試験で一般教養・教職教養・専門教科，論文（作文），面接，2次試験で面接，適性試験，模擬授業などが行われるのが一般的です。

(2) 私立学校の教員になるには

- それぞれの学校が独自に採用試験を実施します。また、日程については統一されていません。
- 東京都・群馬県・静岡県・愛知県・三重県・大阪府・兵庫県・岡山県・広島県の私立学校では、それぞれの私立中・高等学校協会が実施した検定試験（私学適性試験）の成績順名簿が選考の資料となる場合があります。なお、私学適性試験はあくまでも成績順名簿の作成のためであって、この試験が必ずしも私立学校試験の合否を左右するとは限りません。

(3) 教員採用試験受験対策について

- 教員を目指す人のために教職課程では、日常の授業、教育実習指導、総合演習等において個別指導を行う他、教員採用試験受験対策講座（有料）を行っています。教員採用試験突破を目指し、面接・論文指導、模擬授業、模擬試験、教育法規などを中心に実践的な内容を実施します。

8 本学の平成19年度卒業生の教員免許状取得者数一覧

学部	区 分 学 科	取得者数 (人)	免許状件数		高 校 一 種 (人)										中 学 一 種 (人)				
			高校	中学	理	地理	公民	情	農	理農	情農	地公	地農	公農	地公農	理	社	技	理技
東 京 農 業 大 学																			
農学部	農 学 科	43	60	27	12				14	17								27	
	畜 産 学 科	24	29	12	11				8	5								12	
応生学部	バイオサイエンス学科	19	23	13	14				1	4							13		
	生物応用化学科	11	15	9	6				1	4							9		
	醸造科学科	7	7	6	7												6		
環境学部	栄養科学科	11	11	11	11												11		
	森林総合科学科	24	29	27	8				5	8							11	6	
	生産環境工学科	22	28	25	4				6	9							4	5	
国際学部	造園科学科	12	16	7	3				5	4							7		
	国際農業開発学科	23	35	15	6				7	11							15		
	食料環境経済学科	19	25	2		1	5		7			0	2	4	0		2		
生物産業学部	生物企業情報学科	12	11	8				1	8		1						8		
	生物生産学科	15	15						15										
	食品科学科	11	11	8	11												8		
	産業経営学科	14	12	9			12										9		
	計	267	327	179	93	1	17	1	77	62	1	0	2	4	0	123	19	11	
東京農業大学大学院																			
	農学 研究科	15	6	9	1				14								1		
	生物産業学 研究科	3	3						3										
	計	18	9	9	1		0		17							1	0		
	合 計	285	336	188	94	1	17	1	94	62	1	0	2	4	0	124	19	11	

※農学部（大学院各専攻含む）は神奈川県教育委員会で授与（1免許状1教科）
 ※応用生物科学部・地域環境科学部・国際食料情報学部（大学院各専攻含む）は東京都教育委員会で授与（1免許状1教科、ただし地理歴史・公民の社会系の場合は1免許状2教科）
 ※生物産業学部は北海道教育委員会で授与（1免許状1教科）

9 教育実習については、学科ごとに指導担当教員が決定されていますので、指導担当教員の指示に従って下さい。

10 介護等の体験

平成9年に「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、これにより平成10年度以降に大学に入学した者には小学校および中学校の教諭の普通免許状を授与するための要件として、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（「介護等の体験」）が加わりました。

本学の学生は3年次に介護等体験を行います。体験へは2年次配当「福祉概論」を履修し、授業の出席状況を加えることを派遣条件としています。介護等の体験に関する説明会および事前指導は2年次から行いますので、中学校の教員免許状を取得する者は掲示等を見落とさないようにして下さい。

11 免許状の効力

教育職員免許法の改正により、平成21年4月1日から教員免許更新制が導入され、免許状を授与された場合、その効力は10年となります。免許状が失効した後教壇に立つ場合は、更新講習を受講・修了することで、免許状は有効な状態に戻すことができます。

学術情報課程

1 学術情報課程とは

本課程の教育は、企業の情報部、資料部、特許部その他の情報部門、研究開発部門の情報資料部および営業部門ならびに公共機関としての博物館、資料館、科学館、児童館、公共図書館、専門図書館、情報センター等において、科学技術に関する情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供（展示を含む）等にあたる技術者となる基礎を修得させることを目的にしています。この基礎能力は、大学卒業後、研究、技術、営業その他どんな仕事に従事する場合も、非常に役立つものです。

情報化時代といわれる今日、コンピュータ等の機器は急速に進歩しています。これらのハードを利用する技術を担う人材の養成も大学その他において盛んに行われています。しかし、現在わが国では、科学技術情報の調査から提供までを担当する技術者の不足が見られ、その養成教育は大学における教育の盲点のひとつと言えます。

情報を取扱う人材養成の教育は、文科系の大学において、図書館司書あるいは博物館学芸員養成のためのコースで、従来から行われてきました。しかし理科系の大学においては、ほとんど行われていません。その結果、企業や公共機関において、科学技術情報を取扱う人材の確保に困難を生じています。本課程は、社会のこの要求にこたえるために開設されました。

2 学芸員と司書

学芸員は、博物館法によって登録または指定された博物館（動物園、植物園、水族館および美術館を含む、以下「博物館」という）において、調査・研究・展示等の業務を担当する専門職員であります。なお、博物館には、学芸員をおくことが法律で義務づけられています。有資格者の就職先としては、民俗資料館、植物園、動物園、水族館、総合博物館、その他の社会教育施設、展示企業、さらに近年、県市町村立の博物館が多くなり、これらを管轄する教育委員会では、学芸員資格を有する者を採用する傾向が顕著になってきています。

司書は、図書館法によって定められた図書館に置かれる専門的職員であります。図書館は、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、利用に供し、教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で、司書はこれらの専門業務を行う職員です。法律による図書館には、司書の有資格者を置くことが義務づけられています。なお、有資格者の就職先としては、図書館はもちろん、官公庁および企業等の研究開発部門、資料室などがあげられます。

3 資格取得について

「学芸員資格」

博物館法第5条第1号で学芸員となる資格を有する者を「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と規定しています。この規定に基づいて、本学では卒業要件を満たし、所定の単位（8科目12単位）を修得した者に対し資格の証明として「博物館に関する科目の単位修得証書」を授与します。

「司書資格」

図書館法第5条2号で司書となる資格を有する者を「大学を卒業した者で大学において図書館に関する科目を履修したもの」と規定しています。この規定に基づいて、本学では卒業要件を満たし、所定の単位（甲群必修12科目18単位及び乙群選択2科目2単位以上、合計20単位以上）を修得した者に対し資格の証明として「図書館に関する科目の単位修得証書」を授与します。

4 履修科目について

平成9年4月1日改正

資格		開 講 科 目	履修年次	単位
学芸員	(必修)	生涯学習概論	3	1
		博物館概論	2	2
		博物館経営論	3	1
		博物館資料論	2	2
		博物館情報論	3	1
		博物館実習 (事前及び事後の指導1単位を含む)	4	3
		視聴覚教育メディア論	3	1
		教育学概論	3	1
司書	甲群 (必修)	生涯学習概論	3	1
		図書館概論	2	2
		図書館経営論	3	1
		図書館サービス論	2	2
		情報サービス概説	2	2
		レファレンスサービス演習	4	1
		情報検索演習	4	1
		図書館資料論	3	2
		専門資料論	3	1
		資料組織概説	3	2
		資料組織演習	4	2
	児童サービス論	2	1	
	乙群 (選択)	資料特論	3	1
		コミュニケーション論	2	1
		情報機器論	3	1
図書館特論		3	1	

- ① 学芸員資格は上記の8科目合計12単位を取得し、かつ学士の学位を得たものに対し卒業時に授与する。
司書資格は甲群のすべての科目18単位及び乙群の中から2科目2単位の合計20単位を取得し、かつ学士の学位を得たものに対し卒業時に授与する。
 - ② 博物館実習は3年次に館務実習事前指導のほか4日間の施設見学を、4年次には実習室での週2コマの実習のほか10日間の館務実習を実施する。
レファレンスサービス演習、情報検索演習及び資料組織演習の合計4単位を4年次に実施する。またこの単位数にかかわらず合計120時間の演習を行う。なお、希望者には5日間の学外図書館実習を実施する。
 - ③ 授業は5・6時限(16:20～)を主に開講する。また集中講義は夏季休業期間中に実施する。
 - ④ 各講義の最終日に試験を実施する。夏季集中講義の再試験は行わない。
 - ⑤ 学芸員科目は、3年次終了時に未修得の科目が残っている場合は4年次の実習を履修できない。
 - ⑥ 司書科目の図書館概論、情報サービス概論、専門資料論、資料組織概論が3年次終了時に未修得の場合は、4年次の演習科目を履修できない。
- ◎ 履修方法についての説明会
学術情報課程の履修登録および単位修得についての説明会は、1年次後学期に実施しますので、履修希望者はこれに出席してガイダンスを受けると共に、所定の期日までに履修手続をとらなければなりません。
この履修登録は1年次生に限っていますので、所定の時期に申し込まないと履修できないことになります。

5 履修費用について

資 格	金 額
学 芸 員 資 格 (単 修)	130,000円
司 書 資 格 (単 修)	130,000円
学 芸 員 ・ 司 書 両 資 格 (併 修)	180,000円

○履修費用は、単修の場合で合計130,000円，併修の場合では180,000円を納金する。

短期大学部

授業科目の概要

授業科目は、本学の研究及び教育目標を達成するために、次のように分けられ各年次に配当されています。

1 各学科配当授業科目（各学科の教育目標を達成するために編成されています）

必修科目

その学科で必ず修得しなければならない科目

選択科目

学生の意思により選択し、卒業要件単位数以上を修得しなければならない科目

2 オープン開講方式による授業科目

全学共通科目

特別活動プログラム

※修得単位（2単位）は、他学科聴講により修得した単位と合わせて16単位以内を選択科目として卒業要件単位に加えることができます。

3 資格取得に関する授業科目（学科教育を超えた共通科目として編成されています）

学術情報課程科目

司書資格を取得するための科目

単 位 制

大学における単位制とは、授業科目を履修し、その授業科目に与えられた単位を試験等に合格することによって修得する制度です。卒業までに定められた単位数を修得しなければなりません。

各授業科目の単位数は、授業の方法に応じて異なり当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して次の基準により定められています。

[単位計算基準]

区 分	単位数	授 業 時 間
講義・演習（外国語を含む）	2単位	2時間(週 1 コマ) × 15週(半期)
実験・実習・研修・スポーツレクリエーション	1単位	2時間(週 1 コマ) × 15週(半期)

※1時限（1コマ＝2時間）は90分授業で実施します。

授 業

1 学期制（セメスター制）

本学では1年間を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれの学期の中で各学期担当科目の授業・試験・成績評価を行います。したがって各学期の最終評価が不合格となった科目を履修する場合は、翌年度に再度履修し、授業を受講することになります。

2 授業時間

本学の授業は、90分を1時限として行います。なお、授業の時間区分は次のとおりです。

時限	1時限	2時限	昼休み	3時限	4時限	5時限	6時限
時間 (90分間)	9:00 }	10:40 }	12:10 }	13:00 }	14:40 }	16:20 }	18:00 }
	10:30	12:10	13:00	14:30	16:10	17:50	19:30

※短期間に行う集中授業及び隔週で行う授業もあります。

3 出席の重要性

授業は、教員と学生が直接人間的なふれあいを通して学問する場であり、学生生活の基本となるものです。また、単位制の基本となる授業時間について定めがあるように、出席状況は成績評価の重要な要素になります。なお、授業を3分の1以上欠席した場合は、定期試験等を受験しても単位を修得できない場合があります。

4 欠席届

授業をやむを得ない事由で欠席する場合または欠席した場合は、窓口に置いてある「欠席届」に必要事項を記入の上、授業担当者に直接提出して下さい（欠席届は学生ポータルサイトからダウンロードできます）。

なお、学校保健法に規定された伝染病による欠席届は、専用の様式があります。詳細は、p.51の「健康管理」を参照して下さい。

5 休講

休講の場合は事前に掲示により伝達します。休講の掲示がなく、30分経過しても授業が開始されない場合は、関係窓口で確認して下さい（休講情報は、学生ポータルサイトで確認できます）。

6 補講

授業時間数がやむを得ぬ事情により不足した場合には、補講授業を実施することがあります。この場合、授業担当者が指示するほか、掲示により伝達します。

7 学生による授業評価

本学では授業をよりよくするために、学生ポータルサイトまたは携帯電話で「学生による授業評価」を実施しています。よりよい授業を行うことは授業担当者の責務ですが、内容がきちんと受講生に伝わっているか、理解されているか、あるいは「わかりやすいか」を把握（測定）するためには授業評価を実施して受講生の声を集める必要があります。また、大学全体の授業と比較して自分の授業がどうであるかを把握するためにも授業評価は有効です。よりよい授業は、授業担当者と受講生が協力して創り上げるものであるため、授業評価の実施にご協力ください。

また、授業に対して意見がある場合は「授業に意見」という用紙を用いて提出することができます。これは日ごろ授業を受けていて感じることを、改善してほしいと願っていることを発言するためのものです。提出された意見は十分検討し、改善を図ることになっています。学生ポータルサイトには、大学への要望・提案および授業・研究室、学生生活上の悩み等をメールで受け付ける窓口を開設していますのでご利用ください。

履 修

1 履修とは

毎年度はじめに1年間の受講科目を各自が決定し、実際の授業に出席する一連の流れをいいます。

2 履修科目決定までの流れ

(1) 履修計画

履修登録を行うにあたって、1年間の履修計画を立てなければなりません。次の点を考慮し計画して下さい。

- ① 各学科の「授業科目配当表」「講義要項（シラバス）」を熟読し、カリキュラムの概要を把握して下さい。
- ② **必修科目**は、決められた年次・学期に履修して下さい。
- ③ **選択科目**は、将来志向や資格取得などを考え、卒業要件を満たすように履修して下さい。
- ④ 卒業基準を超えるように、履修計画を立てて下さい。

(2) 履修登録

履修登録とは、各自が受講しようとする授業科目について、その意思表示をすることです。また、履修登録は1年間あるいは各学期の履修計画を決める上で最も重要な手続きであり、単位の修得及び卒業には欠かすことのできないものです。履修登録を安易に考え、手続きを怠ったことにより無駄な時間を過ごしてしまうことになりかねません。各自の履修計画を円滑に進めるために細心の注意を払って履修登録を行って下さい。

なお、履修登録の詳細は「履修のてびき」（別冊）に記載してあります。これを参照し履修登録を行って下さい。

(3) 履修の確定

5月中に「履修確定表」を学生ポータルサイトに開示します。この表に記載されている授業科目が当該年度の登録された科目です。登録されていない科目がある場合は、履修確認期間内に手続きをして下さい。

※後学期配当科目については、後学期授業開始後に登録の変更を認めます。

詳細については「履修のてびき」で確認して下さい。

3 履修上の注意事項〔取決め事項〕

(1) 履修登録単位数の制限について

単位を得るためには、定められた時間の学習が必要です。例えば、講義科目の場合、2単位を修得するためには、90時間の学習が必要であり、1回の授業において2時間（2時間×15週間=30時間）学び、1週間に4時間（4時間×15週間=60時間）の予習・復習を行うことにより、単位が与えられます。このように履修登録単位数と学習時間は連動しており、登録する単位数が多ければ1週間に学習する時間は比例して増加することになります。

本学では履修登録を行うにあたって、次のように登録できる単位数を制限しています。1週間に学習できる時間数を考えて履修登録を行うようにして下さい。なお、卒業年次生には履修登録制限はありません。また、学術情報課程と特別活動プログラムの履修登録単位数は、この履修登録単位数の制限に含まれません。

1年間に履修登録できる単位数の上限……46単位（他学科聴講を含む）

各学期に履修登録できる単位数の上限……26単位（他学科聴講を含む）

例えば前学期に26単位登録した場合には、後学期に登録できる単位数は20単位になります。

※履修登録できる単位数とは、あくまでも登録した科目の総単位数であり、修得できた総単位数ではありませんので、注意して下さい。

(2) 有料科目について

一度履修して不合格になった科目を再び履修する場合（再履修）は有料になり，1科目につき所定の金額を納付することになります。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

(3) 他学科聴講について

- ・他の学科の講義科目を履修することです（実験・実習・演習・研修科目は履修できません）。
- ・在学中に16単位まで履修できます（合否にかかわらず，履修した時点で単位数をカウントします）。
- ・修得した単位はすべて卒業要件単位に加えることができます。
- ・上級学年配当の科目は履修できません。

(4) 大学間の協定による授業科目の履修について（詳細は「履修のてびき」を参照）

現在，東京農業大学との間で協定を締結しており，東京農業大学の授業科目を履修することができます。大学間履修は履修登録単位数の制限には入りません。

試験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験を行います。授業科目によっては、レポートに代える場合があります。授業に出席し授業担当者の指示に従って下さい。

受験資格

- (1) 当該授業科目が履修登録されていること
 - (2) 当該授業担当者の定める授業日数を満たしていること（原則として授業日数の2/3以上）
 - (3) 当該学期までの学費その他の納付金を納入していること
- ※休学期間中に試験を受けることはできない

1 定期試験

一定の期間内に時間割を決めて各学期に実施する試験です。定期試験を実施する授業科目およびその時間割は、試験開始1週間前に掲示板・学生ポータルサイトに発表します（実験・実習・演習科目は、原則として「定期試験」を実施しません）。

なお、定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により欠席した場合は、指定された期日（試験時間割発表時に掲示）までに欠席の事由（当日の状況）を証明する書類を持参して試験欠席の手続きを行って下さい。この届出により、追試験の受験を認めます。欠席事由と添付提出書類は次のとおりです。

欠席事由	提出書類
病気	医師の診断書（試験当日の健康状態を記載のものに限る）
交通機関の遅延	交通機関発行の遅延証明書
忌引（3親等までの親族の死亡）	死亡に関する書類（会葬通知等）
就職試験等	就職活動証明書（キャリアセンターで証明を受けること） ※ただし、面接・試験の場合のみ認める。企業説明会は、認められないので注意すること
災害（水害・火災等）	官公庁による被災証明書

※詳細は関係窓口で確認して下さい。

2 追試験

定期試験またはそれに代わる試験を病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者のうち、指定された期日までに試験欠席届を提出した者に対して各学期末に行う試験です（無料）。なお、本人の不注意による試験の欠席および証明する書類がない場合は、追試験の対象となりません。

※追試験を欠席した場合の再度の試験は行いません。

3 再試験

成績が「不可」となった講義科目に対して各学期末に行う試験です（有料）。

再試験受験希望者は、「履修のてびき」（別冊）の指示に従い、手続きを行って下さい。

なお、再試験の結果、合格した場合の評価は、原則として「可」となります。

4 定期試験に関する注意事項

- 試験時間は45分間です。通常の授業時間とは異なるので注意して下さい。
- 学生証を所持していない学生は受験できません。なお、当日忘れた場合は、掲示にしたがい仮学生証の発行を受けて下さい（有料・当日限り有効）。
- 受験科目が重複した場合は、事前に申し出て下さい。
- 試験場への入場は、試験開始後20分までとします（試験開始後は、退場はできません）。
- 試験場あるいは授業担当者との間違い、無記名答案は受験しても無効となります。
- 答案は白紙であっても必ず提出して下さい。
- 試験場においては、すべて監督者の指示に従わなければなりません。
- 試験に関しては、関係窓口へ問い合わせして下さい。

[試験時間]

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間	9:00 }	10:00 }	11:00 }	12:00 }	13:00 }	14:00 }
	9:45	10:45	11:45	12:45	13:45	14:45

時限	7時限	8時限	9時限	10時限	11時限
時間	15:00 }	16:00 }	17:00 }	18:00 }	19:00 }
	15:45	16:45	17:45	18:45	19:45

5 不正行為について

不正行為（カンニング）が発覚した場合は、当該学期の評価をすべて無効（未評価）とします。

6 試験に代えて行うレポート提出時の注意事項

レポートの提出は、担当教員が授業中に提出を求める場合、担当教員が締切期日を指定して研究室等で受け付ける場合、窓口で受け付ける場合等があります。

科目名： _____ 担当者： _____
<課題> _____ _____
学科： _____ 学年： _____ 学籍番号： _____
氏名： _____

いずれの場合も**提出締切厳守**となっていますので注意して下さい。

レポートの提出に際しては、原則として次の注意事項に従って下さい。

- 表紙を含めサイズは、授業担当者の指示がない限りA4にして下さい。
- 必要事項（科目名・担当者・課題・学科・学年・学籍番号・氏名）をもれなく記載して下さい。
- 原則として左上角をホッチキスで必ず止めて下さい。ただし、授業担当者の指示がある場合はそれに従って下さい。
- 定められた場所に提出して下さい。
- 期限は厳守して下さい。
- 表紙のないレポートや、記載内容に不備があるレポートは、無効になる場合があります。

成績

1 成績評価

成績評価は、「秀」・「優」・「良」・「可」が合格で、「不可」は不合格です。成績評価の基準は、次の通りです。

成績評価基準のガイドライン

判定	成績	表示	成績評価基準	GP	成績評価内容
合格	秀	S	100～90点	4.0	特に優れた成績（履修者の5%以内）
	優	A	89～80点	3.0	優れた成績
	良	B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	C	69～60点	1.0	合格と認められる成績
不合格	不可	D	59点以下	0	合格と認められる成績に達していない
	未評価	F	—	0	評価に値しない

2 GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

（1）GPA

自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく学習に役立てるため、平成18年度からGPAを算出しています。

（2）GPA対象科目

GPAの対象科目は、①「卒業要件に算入できる科目」であって、かつ②「5段階評価によって成績を認定する科目」とし、③「学生が履修登録した科目」とします。したがって、他学科聴講科目などは含め、学術情報課程や特別活動プログラムおよび認定科目は除かれます。

（3）GPAの算出

[学期ごとのGPAの算出方法]

学期ごとのGPA算出は、次の式によります。

$$\frac{\text{（当該学期で履修登録したGPA対象科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の合計}}{\text{当該学期で履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. GPA対象科目で不可（D）および未評価（F）科目は、分母に含みます。

注2. 通年科目は後学期に含めGPAを算出します。

注3. 「不可」・「未評価」となった科目を再履修した場合は、再履修した当該学期の対象科目に含め、GPAを算出します。

注4. 前項の場合、「不可」・「未評価」となった学期のGPAは変更しません。

[通算GPAの算出方法]

通算GPAは、在学中に履修登録したすべてのGPA対象科目に基づくもので、その算出は次の式によります。

$$\frac{(\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の最新GP} \times \text{その科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{在学中に履修登録したGPA対象科目の単位数の合計}}$$

注1. 通算GPAは每学期末に算出します。

注2. 再履修した場合は1科目としてカウントします（ダブルカウントしない）。

注3. 再履修した科目のG Pは、最新の評価に基づく値で算出します。

3 履修成績表

各学期に履修した授業科目の成績は、次の学期の授業開始前に履修成績表として学生ポータルサイトにて開示します。

4 成績証明書

成績証明書には、「秀」・「優」・「良」・「可」の合格した授業科目（科目名・単位数・評価）と通算GPAを記載し、不合格の授業科目は記載しません。

5 成績相談

学期毎の成績発表後に実施します。詳細は「履修のてびき」で確認して下さい。

進 級

1 年次から2年次への進級判定（休学者を除く）

1年次終了時に卒業要件に関わる修得単位数が20単位未満の場合には、2年次への進級を認めません（原級または学則第36条第1項第2号に該当する退学となります）。

卒業・学位記

1 卒業要件

卒業に必要な単位数は「62単位」です。

[学科別卒業要件単位数]

学 科 名	必 修	選択必修	選 択	合 計
生物生産技術学科	18	8	36	62
環境緑地学科	28	0	34	62
醸造学科	32	0	30	62
栄養学科	31	0	31	62

※詳細については、学科別授業科目配当表を参照のこと。

2 学位記

卒業生には、次のとおり短期大学士の学位を授与します。また卒業時に学位記を授与します。

学 科	学 位
生物生産技術学科	短期大学士（生物生産技術学）
環境緑地学科	短期大学士（環境緑地学）
醸造学科	短期大学士（醸造学）
栄養学科	短期大学士（栄養学）

3 9月卒業

次の各項目をすべて満たす場合は、9月30日付で卒業する。

- ・ 9月30日までに卒業要件単位を満たしていること（9月30日までに卒業論文の評価が合格になった場合を含む）。
- ・ 9月30日で2年間在学していること。
- ・ 2年次を通算で1年間以上在籍していること。
- ・ 該当学生が9月卒業を希望していること。

そ の 他

1 学生への連絡と掲示

学生への通知や連絡は、学生ポータルサイトによって行います。休講、補講、教室変更、時間変更、手続書類不備の呼出し等を掲示しますので、必ず毎日学生ポータルサイトを見る習慣をつけて下さい。

※電話による問い合わせ（行事予定・試験・休講等）は受け付けていません。学生ポータルサイトで確認するか、関係窓口で直接聞いて下さい。

2 窓口での相談・質問等

履修に関する相談、試験に関する質問、レポートの提出、呼び出し応答など修学に必要な事項の相談・質問は、窓口へ申し出て下さい。

なお、提出期限のある手続き（レポート提出等）は、受付期間・時間を厳守して下さい（期限に遅れた場合は受け付けません）。

窓口受付時間（夏季休業等授業を実施していない期間中は時間を変更するので確認のこと）

〔平日〕世田谷キャンパス 8:30～19:30 厚木キャンパス 8:30～17:00

※時間外は受け付けません。

授業科目配当表

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
教養・専門基礎科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2	
		情報基礎(一)	2	F2	
		情報基礎(二)	2	L2	
		スポーツ・レクリエーション	1	F2	
		英語(一)	2	F2	
		英語(二)	2	L2	
		英語(三)	2		F2
		バイオセラピー論	2		L2
		ボランティア論	2		L2
		特別講義(一)	2		
		特別講義(二)	2		
	必	生物生産概論	2	F2	
	必	生物産業マイスターセミナー	2	L2	
	選必	植物生理生態学	2	F2	
	選必	動物解剖生理学	2	F2	
		生物統計学	2		L2
		応用昆虫学	2		F2
		植物病理学	2		F2
		気象環境学	2		F2
		土壌学	2	L2	
	肥料・植物栄養学	2	L2		
	遺伝学	2	F2		
	分子生物学	2	L2		
	資源生物学	2	F2		
	国際農業概論	2		F2	
専門科目	選必	穀物生産学	2	L2	
	選必	野菜生産学	2	L2	
	選必	果物生産学	2	F2	
	選必	花生産学	2		L2
	選必	植物育種学	2		L2
	選必	家畜生産学	2	L2	
		インテリアプランツ論	2		F2
		植物バイオテクノロジー概論	1	F2	
		家畜飼養学	2		L2
		動物衛生学	2		F2
		動物繁殖学	2	L2	
		動物育種学	2		F2
		動物バイオテクノロジー概論	1	L2	
		実験動物学	2		F2
		コンパニオンアニマル論	2	L2	
		環境保全型農業論	2		L2
		生物産業経営論	2		F2
		農産物マーケティング論	2		F2
	農産加工・利用学	2		L2	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
総合化の科目	必	生物生産基礎実習	2	4	
	必	生物生産専門実習	2		4
	必	生物産業インターンシップ	2		2
	必	生物生産基礎実験	2	L4	
	必	生物生産専門実験	2		F4
	必	生物生産演習	2		2
		バイオテクノロジー実験	2		4
		卒業論文	2		

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数			
必修科目	選択必修科目	選択科目	計
18単位	8単位以上	36単位以上	62単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

・他学科聴講と特別活動プログラムで修得した単位のうち16単位

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。
- 2 「教養・専門基礎科目」の選択必修科目より1科目以上を修得しなければならない。
- 3 「専門科目」の選択必修科目より3科目以上を修得しなければならない。

環境緑地学科

平成17年4月改正

短緑

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数		資格			
				一年次	二年次	樹木医補認定科目	測量士補認定科目	ビオトープ計画管理士一部試験免除認定科目	ビオトープ施工管理士一部試験免除認定科目
教養・専門基礎科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2					
		情報基礎(一)	2	F2		●			
		情報基礎(二)	2	L2		●			
		英語(一)	2	F2					
		英語(二)	2	L2					
		英語(三)	2		F2				
		スポーツ・レクリエーション	1	F1					
		環境科学概論	2	L2		●	●	●	
		植物学基礎	2	L2					
		自然環境論	2	L2		●	●	●	●
		植物分類学	2	L2		●			
		土壌及肥料学	2		L2	●	●		
	特別講義(一)	2							
	特別講義(二)	2							
専門科目	必	フィールド調査実習	2	F2		●	●	●	●
	必	製図実習	2	2					
	必	CAD設計実習	2	2					
	必	農場実習(一)	2	F2		●			
	必	農場実習(二)	2	L2		●			
	必	環境植栽学	2	L2					
	必	緑地計画学	2		F2	●	●	●	●
	必	生物保全論	2	F2			●	●	●
		植物保護学	2		F2	●			
		公園緑地論	2	F2			●	●	●
		緑地植物学	2	F2		●			
		敷地計画及デザイン論	2	L2			●		
		庭園論	2	L2					
		ガーデニング基礎	2	L2					
		野生生物管理論	2		L2	●		●	●
		地域環境計画論	2		F2		●	●	
		植物生態学	2		F2	●		●	●
		緑化植物生産法	2		F2			●	●
		緑地生態学	2		L2			●	●
		グリーンインテリア	2		F2				
	樹木医学概論	2		L2	●				
	造園施工学	2		L2				●	
	緑地工学	2		2		●			
	緑地工学実習	2		2		●			
	緑地材料工学	2		F2		●		●	
	自然観察及指導法	2		F2					
総合化の科目	必	環境緑地専攻演習	4		4	●			
	必	緑化企業実習	2		2				
	必	測量学	2	F2			●		
	必	測量実習	2	2			●		
		造園施工実習	2		2				
		緑化企業論	2		L2				
	卒業研究	2		2					

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択	計
28単位	34単位以上	62単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

・他学科聴講と特別活動プログラムで修得した単位のうち16単位

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 樹木医補, 土木・造園施工技術検定受検資格認定については, ガイドンスにて説明する。

3 樹木医補希望学生は, 環境緑地専攻演習の環境植栽コースか環境調査コースを履修し, 修得すること。

4 樹木医補希望学生は, 生物生産技術学科開講科目の植物病理学を他学科聴講し, 修得すること。

醸造学 科

平成16年4月改正

短醸

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
教養・専門基礎科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2	
	必	情報基礎(一)	2	F2	
	必	情報基礎(二)	2	L2	
	必	化学	2	L2	
	必	有機化学	2		F2
	必	生物化学	2	L2	
	必	食品化学	2	L2	
	必	食品化学実験	3	L6	
		英語(一)	2	F2	
		英語(二)	2	L2	
		英語(三)	2		F2
		スポーツ・レクリエーション	1	F2	
		民俗学	2	F2	
		法と生活	2	F2	
		基礎化学	2	F2	
		基礎生物学	2	F2	
		バイオテクノロジー概論	2	F2	
		醸造産業論	2		L2
		栄養化学	2	L2	
		環境保全学	2		F2
	特別講義(一)	2			
	特別講義(二)	2			
専門科目	必	酒類学	2	F2	
	必	酒類学実験	3		L6
	必	調味食品学	2	F2	
	必	調味食品学実験	3		F6
	必	微生物学	2	F2	
	必	微生物学実験	3	F6	
		清酒製造論	2	L2	
		洋酒製造論	2		F2
		蒸留酒製造論	2		L2
		醬油製造論	2	L2	
		味噌製造論	2		F2
		食品加工学	2		F2
		食品衛生学	2		F2
		微生物生理学	2	L2	
		微生物利用学	2		F2
		酵素利用学	2	L2	
		醸造環境科学	2	F2	
		機器分析論	2		F2
	生物化学工学	2		F2	
	飲酒生理学	2		L2	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
総合化の科目		飲食文化論	2	F2	
		官能検査演習	2		F2
		醸造特別実習(一)	1	L2	
		醸造特別実習(二)	1		L2
		卒業研究	2		

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
32単位	30単位以上	62単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

・他学科聴講と特別活動プログラムで修得した単位のうち16単位

- 注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。
 2 醸造特別実習(一)・(二)は集中で行う。
 3 醸造特別実習(二)は, 醸造特別実習(一)の単位を修得した学生のみ履修できる。

栄 養 学 科

平成16年4月改正

短栄

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
教養・専門基礎科目	必	フレッシュマンセミナー	2	F2	
	必	情報基礎(一)	2	F2	
	必	情報基礎(二)	2	L2	
	必	化学(一)	2	F2	
	必	化学(二)	2	L2	
	必	※栄養学基礎実験	2	F4	
	必	英語(一)	2	F2	
		英語(二)	2	L2	
		英語(三)	2		F2
		基礎生物学	2	F2	
		生活環境科学	2	L2	
		微生物学	2	L2	
		※生化学	2		F2
		スポーツ・レクリエーション	1		L2
		特別講義(一)	2		
		特別講義(二)	2		
専門科目	必	食品開発・品質管理論	1		F1
	必	食料資源生産論	2		L2
	必	※食品化学	2	F2	
	必	※食品学基礎実験	2	L4	
	必	※調理科学	2	F2	
	必	※基礎栄養学	2	F2	
	必	※公衆栄養学	2		L2
		※食品材料科学	2	F2	
		※食品・調理科学実験	2	L4	
		※食品加工学	2	L2	
		※給食管理	2	L2	
		※給食管理学内実習	2	L4	
		※調理学実習(一)	2	F2	
		※応用栄養学	2	L2	
		※解剖生理学(一)	2	F2	
		※解剖生理学(二)	2	L2	
		※給食管理学外実習(校外実習を含む)	2		F4
		※調理学実習(二)	1	F2	
		※食品衛生学	2	L2	
		※食品衛生学実験	2	L4	
	※食品製造・品質評価実験	2	L4		
	食品機能学	2	F2		
	※応用栄養学実習	1		F2	

分野	区分	授業科目	単位数	週時間数	
				一年次	二年次
専門科目		※臨床栄養学	2		F2
		※臨床栄養学実習	1		F2
		※スポーツ栄養学	2		L2
		※栄養指導総論	2		F2
		※栄養指導各論	2		L2
		※栄養指導実習	2		F4
		※運動生理学	2		F2
		※解剖生理学実験	2		F4
		※公衆衛生学	2		F2
		※社会福祉概論	2		L2
総合化の科目	必	卒業論文	4		

区分欄の必は必修科目を表す(空白は選択科目)。

卒業要件単位数		
必修科目	選択科目	計
31単位	31単位以上	62単位以上

選択科目には次の単位を加算することができる。

・他学科聴講と特別活動プログラムで修得した単位のうち16単位

注) 1 週時間数欄のFは前学期配当科目, Lは後学期配当科目を表す。

2 ※は栄養士関係科目。

3 栄養士免許を取得するには, 栄養士関係科目を必修とする。

4 給食管理学外実習は, 集中で行う。

短期大学部

全学共通科目

特別活動プログラムについて

当プログラム設置の目的

学生諸君が取り組んでいるクラブ活動や社会活動など様々な活動を、本学の「個性ある教育」および人格形成や社会性の涵養など人間教育的観点から意義あるものと位置づけ、積極的に評価し、その単位化を計ることを目的とします。また、これらの活動を単位化することにより、学生諸君の取り組み姿勢を明確にするとともにその内容や意欲のより一層の充実を図ることを合わせて目的とします。

対象とする諸活動

活動区分	対象とする具体的活動
(1) クラブ活動 (一), (二)	体連, 文連, 総務, 応援団, 学科統一本部, 同好会
(2) 国際学生交流活動 (一), (二)	学生サミット, 留学生支援, 大学間交流支援など
(3) 環境マネジメント活動 (一), (二)	ISO, 学内外環境管理活動
(4) ボランティア活動 (一), (二)	地域貢献, 国際貢献, 環境保全, NPO活動, 学習支援活動 (小・中学校・クラブ活動支援), 福祉活動 (高齢者・障害者介護支援) など

単位認定の特色とカリキュラム上の位置づけ

本活動に関する単位認定の特徴は、通常の科目のように教員の教育目標やシラバスに基づき行う講義や実験・実習、その成績評価のシステムではなく、学生自らが主体的に取り組んだ活動について、学生本人が、活動の責任者の承認を受け単位認定を申請するシステムであることです（履修申請は不要、活動の指導者、責任者が一括承認も可とする）。最終的には、学生の申請書類（活動記録等）をもとに単位認定委員会が審査し単位認定を行います。

なお、単位数は1年（あるいは短期集中1活動）を1単位とし、申請は単年度申請とします。同一年度における同一活動区分での複数申請は行えません。修得総単位数のうち、2単位が卒業要件として認められます。また、取得した単位は、卒業要件として他学科聴講16単位に含むものとします。また、当プログラムによる修得単位は、年間および学期ごとの履修制限単位数には含みません。

申請書類提出の手順について

履修のてびき・学生ポータルサイトを参照のこと。

教職・學術情報課程

學 術 情 報 課 程

学術情報課程

1 学術情報課程とは

本課程の教育は、企業の情報部、資料部、特許部その他の情報部門、研究開発部門の情報資料部および営業部門ならびに公共図書館、専門図書館、情報センター等において、科学技術に関する情報の調査・収集・整理・保管・検索・提供等にあたる技術者となる基礎を修得させることを目的としています。この基礎能力は、大学卒業後、研究、技術、営業その他どんな仕事に従事する場合も、非常に役立つものです。

情報化時代といわれる今日、コンピュータ等の機器は急速に進歩しています。これらのハードを利用する技術を担う人材の養成も大学その他において盛んに行われています。しかし、現在わが国では、科学技術情報の調査から提供までを担当する技術者の不足が見られ、その養成教育は大学における教育の盲点のひとつと言えます。

図書館は最近、科学とくに自然科学及びその応用分野から情報需要に適切に応える必要に迫られ、情報化社会に対処する図書館のあり方が急速に変化しつつあります。

情報を取扱う人材養成の教育は、文科系の大学において、図書館司書養成のためのコースで、従来から行われてきました。しかし理科系の大学においては、ほとんど行われていません。その結果、企業や公共機関において、科学技術情報を取り扱う人材の確保に困難を生じています。この社会的要求に応えるには、自然科学系の司書の養成が急務であり、本課程は、社会のこの要求に応えるために開設されました。

2 司書とは

司書は、図書館法によって定められた図書館に置かれる専門的職員であります。図書館は、図書・記録その他必要な資料を収集し、整理し・保存して、利用に供し、教養・調査研究・レクリエーション等に資することを目的とする施設で、司書はこれらの専門業務を行う職員です。法律による図書館には、司書の有資格者を置くことが義務づけられています。

なお有資格者の就職先としては、図書館はもちろん官公庁及び企業などの研究開発部門・資料室等が上げられます。

3 司書資格取得について

図書館法第5条2号で司書となる資格を有する者を「大学を卒業した者で大学において図書館に関する科目を履修したもの」と規定しています。

この規定に基づいて、本学では卒業要件を満たし、所定の単位（甲群必修12科目18単位及び乙群選択2科目2単位以上、合計20単位以上）を修得した者に対し資格の証明として「図書館に関する科目の単位修得証書」を授与します。

4 履修科目について

平成9年4月1日改正

資格	開講科目	履修年次	単位	
司書	甲群 (必修)	生涯学習概論	1	1
		図書館概論	1	2
		図書館経営論	1	1
		図書館サービス論	1	2
		情報サービス概説	1	2
		レファレンスサービス演習	1	1
		情報検索演習	1	1
		図書館資料論	1	2
		専門資料論	1	1
		資料組織概説	1	2
		資料組織演習	2	2
	児童サービス論	1	1	
	乙群 (選択)	資料特論	1	1
		コミュニケーション論	1	1
		情報機器論	1	1
		図書館特論	1	1

- ① 司書資格は甲群のすべての科目18単位及び乙群の中から2科目2単位の合計20単位を取得し、かつ準学士を得たものに対し卒業時に授与する。
- ② レファレンスサービス演習、情報検索演習及び資料組織演習の合計4単位を1年次後期～2年次前期にかけて実施する。またこの単位数にかかわらず合計120時間の演習を行う。
- ③ 授業は5・6時限(16:20～)を主に開講する。また集中講義は夏季期間中に実施する。
- ④ 各講義の最終日に試験を実施する。夏季集中講義科目の再試験は行わない。

5 履修費用について

資格	金額
司書資格	130,000円

○履修費用は、合計130,000円を納金する。

